

目 次

様 式	名 称
(出来形管理関係)	
1	出来形管理図表 品質管理図表 (表紙)
2-1	出来形管理図表
2-2	度 数 表
3-1	測定結果一覧表
3-2	鋼管溶接測定結果一覧表
3-3	鋼管溶接、塗覆装点検表
3-4	管水路ジョイント間隔測定結果一覧表
3-5	埋設とう性管たわみ量管理表
3-6	鉄筋組立検査結果一覧表
4	杭 打 ち 成 績 表
(コンクリート関係)	
5	セメントの密度試験 (JIS R 5201)
6-1	セメントの粉末度試験 (比表面積試験) (JIS R 5201)
6-2	セメントの粉末度試験 (網ふるい試験) (JIS R 5201)
7	セメントの凝結試験 (JIS R 5201)
8	セメントの安定性試験 (JIS R 5201)
9	セメントの強さ試験 (JIS R 5201)
10	細骨材の密度および吸水率試験 (JIS A 1109)
11	粗骨材の密度および吸水率試験 (JIS A 1110)
12	細骨材の表面水率試験 (JIS A 1111)
13-1	骨材のふるい分け試験 (細骨材) (JIS A 1102)

様式	名	称
13-2	骨材のふるい分け試験 (粗骨材)	(JIS A 1102)
14	骨材試験成績一覧表	
15	コンクリートのスランプ試験およびフレッシュコンクリートの空気量の圧力による試験(空気室圧力方法)	(JIS A 1101) (JIS A 1128)
16	コンクリートの圧縮強度試験	(JIS A 1108)
17	コンクリートの曲げ強度試験	(JIS A 1106)
18	フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験	(JIS A 5308) (JIS A 1144)
19	骨材のアルカリシリカ反応性試験 (化学法)	(JIS A 5308) (JIS A 1145)
20	骨材のアルカリシリカ反応性試験 (モルタルバー法)	(JIS A 5308) (JIS A 1146)
21	鉄筋の曲げ試験	(JIS G 3112) (JIS Z 2248)
22	鉄筋の引張試験	(JIS G 3112) (JIS Z 2241)
	(土質関係)	
23	土の含水比試験	(JIS A 1203) (JGS 0121)
24-1	砂置換法による土の密度試験 (較正)	(JIS A 1214)
24-2	砂置換法による土の密度試験 (測定)	(JIS A 1214)
25	土の収縮定数試験	(JIS A 1209) (JGS 0145)
26-1	C B R 試験 (初期状態、吸水膨張試験)	(JIS A 1211) (JGS 0721)
26-2	C B R 試験 (貫入試験)	(JIS A 1211) (JGS 0721)
26-3	C B R 試験 (室内試験結果)	(JIS A 1211) (JGS 0721)
27	修正 C B R 試験	
28	現場 C B R 試験	(JIS A 1222)
29	道路の平板載荷試験	(JIS A 1215)
30	土の直接せん断試験	

様式	名	称
31	ポータブルコーン貫入試験	(JGS 1431)
32	締固めた土のコーン指数試験	(JIS A 1228) (JGS 0716)
33-1	土の一軸圧縮試験 (初期状態、軸圧縮過程)	(JIS A 1216) (JGS 0511)
33-2	土の一軸圧縮試験 (強度・変形特性)	(JIS A 1216) (JGS 0511)
34-1	土の液性限界・塑性限界試験 (測定)	(JIS A 1205) (JGS 0141)
34-2	土の液性限界・塑性限界試験 (試験結果)	(JIS A 1205) (JGS 0141)
35	土粒子の密度試験 (検定、測定)	(JIS A 1202) (JGS 0111)
36-1	土の粒度試験 (ふるい分析)	(JIS A 1204) (JGS 0131)
36-2	土の粒度試験 (2mmふるい通過分分析)	(JIS A 1204) (JGS 0131)
36-3	土の粒度試験 (粒径加積曲線)	(JIS A 1204) (JGS 0131)
37-1	突固めによる土の締固め試験 (測定)	(JIS A 1210) (JGS 0711)
37-2	突固めによる土の締固め試験 (締固め特性)	(JIS A 1210) (JGS 0711)
	(アスファルト関係)	
38	アスファルト試験成績一覧表	
39	アスファルトの粘度温度表	
40	粗骨材試験成績一覧表 (碎石)	
41	細骨材試験成績一覧表 (砂)	
42	石粉及びスクリーニングス試験成績一覧表	
43	骨材粒度曲線表 (アスファルト)	
44	合材粒度ふるい分け試験及び配合比決定例	
45	骨材の推定変動範囲 (細骨材及びスクリーニングス)	
46	骨材配合率の密度補正	

様式	名 称
47	骨材配合率及び合成粒度 (室内試験)
48	合成粒度曲線 (室内試験)
49	試験配合表 (アスファルト量別)
50-1	アスファルト混合物の安定度試験 (マーシャル式・理論最大密度)
50-2	アスファルト混合物の安定度試験 (マーシャル式)
51	試験結果図表
52	マーシャル試験による基準アスファルト量
53	フィーダ、ホットビン、ミキサーの骨材の粒度試験
54	粗骨材のすりへり試験 (JIS A 1121)
55	アスファルトの抽出試験
56	路面の平坦性試験表 (標準偏差)
57	プルーフローリング試験
	(品質管理関係)
58-1	\bar{X} - R 管理データシート
58-2	\bar{X} - R 管理データシート
58-3	\bar{X} - R 管理図
59-1	X - R _s - R _m 管理データシート
59-2	X - R _s - R _m 管理データシートの2
60	X - R _s - R _m 管理図

(出来形管理関係)

様式 1

平成 年度 工事

出来形管理図表

品質管理図表

種 目

農業事務所

受注会社名

- 注)
1. 出来形(品質)管理図表は、本表紙様式により、工種毎に綴るものとする。ただし、小規模工事については、監督職員の承認を得て、全工種分を一括綴りすることができる。
 2. 種目は、基準高、厚さ、幅等と記入する。

出来形管理図表

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

管理基準値 A		規格値 B		測定 単位
+	-	+	-	

番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値 との差 E=D-C	管理基準 値との差 F= A - E	設計値との差	

- 記入事項
- 1. 「工種名」は、掘削(基準高(V))、フルーム(厚さ(T))、橋台工(中心線のズレ(e))等と記入する。
 - 2. 「番号」の欄は、施工順位を記入し、「測点」の欄は当該測点番号を記入する。
 - 3. 「月日」の欄は測定年月日を記入する。
 - 4. 設計値との差の単位を定め、目盛りに数値を記入する。
 - 5. Fを算出する|A|値は、E>0の場合は+側の値を、E≤0の場合は-側の値を用いる。また、|A|値が+側か-側の片方、若しくは両方ない場合は、その符号側はF=|E|とする。

測定箇所図

様式 2-2

度 数 表

工 事 名
工 種 名
平 成 年 月 日 現 在

受注会社名
測 定 者 印

度
数
(回)

(-) ← 設計値との差 → (+)

注) 出来形管理で20点以上の場合使用する。

測定結果一覧表

工事名 _____

受注会社名 _____

工種名 _____

測定者 _____ 印

管理基準値 A		規格値 B		測定 単位
+	-	+	-	

管理基準値 A		規格値 B		測定 単位
+	-	+	-	

番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値 との差 E=D-C	管理基準 値との差 F= A - E

番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値 との差 E=D-C	管理基準 値との差 F= A - E

記入事項

1. 「工種名」は、掘削(基準高(V))、フルーム(厚さ(T))、橋台工(中心線のズレ(e))等と記入する。
2. 「番号」の欄は、施工順位を記入し、「測点」の欄は当該測点番号を記入する。
3. 「月日」の欄は測定年月日を記入する。
4. Fを算出する|A|値は、E>0の場合は+側の値を、E≤0の場合は-側の値を用いる。また、|A|値が+側か-側の片方、若しくは両方になくはない場合は、その符号側はF=|E|とする。

管水路ジョイント間隔測定結果一覧表

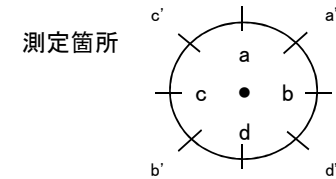
工事名 _____

受注会社名 _____

測定者 _____ 印

管種名 (呼び径)	測定年月日	測定位置 (管番号)	測定値(接合時)					管理基準値	判定	備考	測定年月日	測定値(埋戻後)				(参考) 規格値	判定	備考
			a	b	c	d	平均					a	b	c	d			

- 注 1. 管理基準値は接合時の値であり、4箇所での平均とする。
 2. (参考)規格値は埋戻し後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。
 3. 測定は、呼び径700mm以下の場合には管の外から測定しても良い。
 また、埋戻し後の測定は、原則として呼び径700mm以下の測定は必要ない。
 4. 管の外から測定する場合の測定位置は、a'、b'、c'、d'の位置とする。
 5. 強化プラスチック複合管のD形の場合は、受口側と挿口側を各々測定すること。



<記載例>

測定位置	測定値				
	a	b	c	d	平均
NO.○○受(受口側データ記載)					
" 挿(挿口側データ記載)					

(参考)
 標線による計測 ジョイント間隔 = 受け口長 l_2 - (標線長 h - 測定長 x_1)
 標線によらない計測 ジョイント間隔 = 受け口長 l_2 - (管有効長 L - 測定長 x_2)

埋設とう性管たわみ量管理表

工事名 _____

受注会社名 _____

管種(長さ) _____

測定者 _____ 印

測定位置 (管番号)	管据付時				管頂埋戻し時				埋戻し完了時				D+t(mm) (内径)(管厚)
	D _U mm	たわみ率 %	D _h mm	たわみ率 %	D _U mm	たわみ率 %	D _h mm	たわみ率 %	D _U mm	たわみ率 %	D _h mm	たわみ率 %	

たわみ率の計算

$$\frac{\Delta X}{2R} \times 100(\%)$$

$$\Delta X = [2R - (D_U + t)] \text{ 又は } [2R - (D_h + t)]$$

2R: 管厚中心直径

t: 管厚

- 注) 1. マーキング位置における測定値を記入する。
 2. 測定については「土木工事施工管理基準」別表第1 直接測定による出来形管理 管水路工事 管水路 (埋設とう性管)の測定基準による。
 3. 矢板引抜き時の測定は、「管頂埋戻し時」の欄に測定値を記入する。

様式 3-6

鉄筋組立検査結果一覧表

工事名 : _____

受注会社名 : _____

工種名 : _____

番号	測定年月日	径(mm)及び本数(本)		中心間隔(mm)				かぶり(mm)			組立状況(継手長、曲げ状況、結束等)	備考
		設計値	判定	設計値	検査値	設計値との差	判定	設計値	検査値	判定	判定	

測定箇所 : (設計上の位置及び名称) _____

測定者 _____ 印

記入事項

- 1. かぶりの許容誤差は±φかつ最小かぶり以上とする。
- 2. 鉄筋間隔の許容誤差は±φとする。
- 3. 判定欄は合格、不合格を記入する。

様式 4

杭打ち成績表

工事名 : _____

受注会社名 : _____

工種名 : _____

測定者 _____ 印

杭打込み 月 日	杭番号	杭規格	測定時 杭深度(m)	ハンマー 落下高(cm)	打込回数	リバウンド (cm)	平均沈下 量(cm)	支持力(kN)	摘要

杭配置図

適用公式名: _____

設計支持力: _____

様式 8

セメントの安定性試験
(JIS R 5201)

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験日	平成	年	月	日	曜	天候
試験日の状態	室 温 (° C)				湿 度 (%)	
養生温度(°C)						
試 料						
測 定 番 号				1	2	3
試 料 の 質 量 (g)						
水 の 量 (ml)						
ひび割れ・反りの有無						
試験結果						
考 察						

様式 9

セメントの強さ試験
(JIS R 5201)

工事名 _____

受注会社名 _____

工種名 _____

測定者 _____ 印

試験日		平成	年	月	日	平成	年	月	日	平成	年	月	日	平成	年	月	日	
試験日の状態	室温 (°C)																	
	湿度 (%)																	
養生温度 (°C)																		
材 齢 (日)																		
供試体質量 (g) (脱型直後)	1																	
	2																	
	3																	
供試体質量 (g) (強さ試験直前)	1																	
	2																	
	3																	
曲げ試験	最大荷重 (N)	1																
		2																
		3																
	曲げ強さ (N/mm ²)	1																
		2																
		3																
平均値 (N/mm ²)																		
圧縮試験	最大荷重 (N)	1																
		2																
		3																
		4																
		5																
		6																
	圧縮強さ (N/mm ²)	1																
		2																
		3																
		4																
		5																
		6																
平均値 (N/mm ²)																		
供試体作製日 : 平成 年 月 日																		

粗骨材の密度および吸水率試験
(JIS A 1110)

工事名 _____ 受注会社名 _____
 工種名 _____ 測定者 _____ 印

試 験 日	平成 年 月 日 曜 天候					
試験日の状態	室 温 (°C)	湿 度 (%)	水 温 (°C)	乾燥温度 (°C)		
試 料	-----					
	測 定 番 号		1	2	3	4
① 試 料 の 質 量 m ₁ (g)						
② 水 中 の か ご と 試 料 の 質 量 m ₂ (g) 見 掛 け の 質 量						
③ 水 中 の か ご の 見 掛 け の 質 量 m ₃ (g)						
④ 水 中 の 試 料 の 見 掛 け の 質 量 (m ₂ -m ₃) (g)						
⑤ 密 度 $\frac{\text{①} \times \rho_w}{\text{①} - \text{④}}$ (g/cm ³)						
⑥ 平 均 値						
⑦ 平 均 値 と の 差						
⑧ 乾 燥 後 の 試 料 の 質 量 m ₄ (g)						
⑨ 吸 水 率 $\frac{\text{①} - \text{⑧}}{\text{⑧}} \times 100$ (%)						
⑩ 平 均 値 (%)						
⑪ 平 均 値 と の 差 (%)						
考 察	-----					

試験温度における水の密度 ρ _w = g/cm ³						

細骨材の表面水率試験
(JIS A 1111)

工事名 _____

受注会社名 _____

工種名 _____

測定者 _____ 印

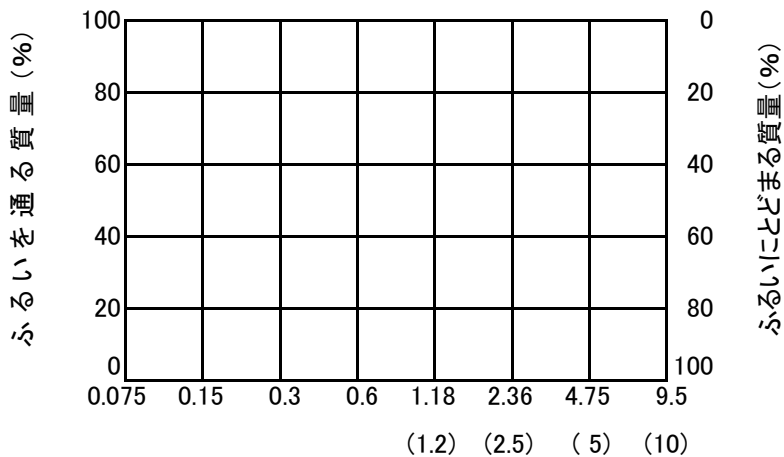
試験日	平成 年 月 日 曜	天候		
試験日の状態	室温 (°C)	湿度 (%)	水温 (°C)	
試料	-----			
	d _s : 試料の表面乾燥密度 = g/cm ³			
測定番号	1	2	3	4
① 試料の質量 m ₁ (g)				
② (フラスコ)+(マークまでの水)の質量 m ₂ (g)				
③ (フラスコ)+(マークまでの水) +(試料)の質量 m ₃ (g)				
④ m=①+②-③ (g)				
⑤ ms = $\frac{\text{①}}{d_s}$				
⑥ 表面水率 H = $\frac{\text{④}-\text{⑤}}{\text{①}-\text{④}} \times 100$ (%)				
⑦ 平均値 (%)				
⑧ 平均値との差 (%)				
⑨ 試料を覆う水量 V ₁ (ml)				
⑩ (試料)+(水)の容積 V ₂ (ml)				
⑪ V = ⑩ - ⑨ (g)				
⑫ 表面水率 = H = $\frac{\text{⑪}-\text{⑤}}{\text{①}-\text{⑪}} \times 100$ (%)				
⑬ 平均値 (%)				
⑭ 平均値との差 (%)				
考察	-----			

骨材のふるい分け試験（細骨材）
(JIS A 1102)

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験日	平成 年 月 日 曜 天候
試験日の状態	室温 (°C)
	湿度 (%)
試料	-----
ふるいの呼び寸法 (mm)	各ふるいにとどまる質量の累計
	(g) (%) (g) (%) (%)
9.5 (10)	
4.75 (5)	
2.36 (2.5)	
1.18 (1.2)	
0.6	
0.3	
0.15	
0.075	
受皿	
計	
粗粒率	



ふるいの呼び寸法 (mm)、※()は従来の呼び寸法
ふるい分け曲線

考 察

コンクリートの圧縮強度試験
(JIS A 1108)

工事名 _____ 受注会社名 _____
 工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験日	平成 年 月 日 曜		天候								
試験日の状態	室温 (°C)		湿度 (%)								
試験料											
示方配合	粗骨材の最大寸法 (mm)	スラップ (cm)	水セメント比 W/C (%)	空気量 (%)	細骨材率 s/a (%)	単 位 量 (kg/m ³)					
						水 W	セメント C	混和材 F	細骨材 S	粗骨材G	
									mm	mm	
材 齢 (日)											
養生方法	養生温度 (°C)										
供試体番号	1	2	3	4							
平均直径 (mm)											
断面積 (mm ²)											
平均高さ (mm)											
スラップ (cm)											
質 量 (kg)											
最大荷重 (N)											
圧縮強度 (N/mm ²)											
平均圧縮強度 (N/mm ²)											
見掛け密度 (kg/m ³)											
平均見掛け密度 (kg/m ³)											
供試体の破壊状況のスケッチ											
考 察	-----										

コンクリートの曲げ強度試験
(JIS A 1106)

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験日	平成 年 月 日 曜		天候									
試験日の状態	室温 (°C)		湿度 (%)									
試験料												
示方配合	粗骨材の最大寸法 (mm)	スパン (cm)	水セメント比 W/C (%)	空気量 (%)	細骨材率 s/a (%)	単 位 量 (kg/m ³)						
						水 W	セメント C	混和材 F	細骨材 S	粗骨材G		混和剤 (g/m ³)
										mm }	mm }	
材 齢 (日)												
養生方法												
養生温度 (°C)												
供試体番号	1	2	3	4								
平均幅 (mm)												
平均高さ (mm)												
スパン (mm)												
最大荷重 (N)												
曲げ強度 (N/mm ²)												
平均曲げ強度 (N/mm ²)												
破壊断面とこれに近い支点との距離 (mm)												
供試体の破壊状況のスケッチ												
考 察	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>											

様式 18

フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験
(JIS A 5308、JIS A 1144)

工事名 _____
工種名 _____

受注会社名 _____
測定者 _____ 印

試験日	平成 年 月 日				天候						
試料	採取方法										
	保管方法										
示方配合	粗骨材の最大寸法 (mm)	スランプの範囲 (cm)	空気量の範囲 (%)	水セメント比 (%)	細骨材率 (%)	単位容積質量 (kg/m ³)					
						水	セメント	細骨材	粗骨材		混和材料
	~ mm/mm	~ mm/mm									
測定内容	分析方法										
	測定器名及び指示薬										
測定回数	1	2	3	平均							
塩化物イオン濃度 (%)											
塩化物量 (kg/m ³)						判定基準			測定場所		
						_____ 以下			現場	工場	

様式 19

骨材のアルカリシリカ反応性試験（化学法）
(JIS A 5308、JIS A 1145)

工事名 _____

受注会社名 _____

工種名 _____

測定者 _____

印 _____

試験日		平成 年 月 日																								
骨材の種類	骨材の産地	繰返し	試料量 (g)	反応時間 (hf)	アルカリ濃度減少量 (Rc) (mmol/l)					溶解シリカ量 (Sc) (mmol/l)									有害度の判定							
										吸光度法				質量法			原子吸光度法									
					V ₁ (ml)	V ₂ (ml)	V ₃ (ml)	Rc	平均値	V (ml)	C (mg/l)	Sc	平均値	W (g)	Sc	平均値	C (mg/l)	Sc		平均値						
		1																								
		2																								
		3																								
		1																								
		2																								
		3																								
		1																								
		2																								
		3																								
備考																										

様式 20

骨材のアルカリシリカ反応性試験（モルタルバー法）
 (JIS A 5308、JIS A 1146)

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験日	平成 年 月 日		曜 天候				
試験日の状態	気温 (°C)	室温 (°C)	容器内温度 (°C)	容器内湿度 (%)			
セメント	種別 全アルカリ						
骨材	産地 種別						
区分	材 齢	脱型時	2週間	4週間	8週間	3ヶ月	6ヶ月
① 基長 L (有効ゲージ長) ($\times 10^{-3}$ mm)	1						
	2						
	3						
② 供試体脱型時のダイヤル ゲージの読み X_{ini} ($\times 10^{-3}$ mm)	1						
	2						
	3						
③ 同時測定した標準尺のダ イヤルゲージの読み sX_{ini} ($\times 10^{-3}$ mm)	1						
	2						
	3						
④ 材齢における供試体のダ イヤルゲージの読み X_i ($\times 10^{-3}$ mm)	1						
	2						
	3						
⑤ 材齢における標準尺のダ イヤルゲージの読み sX_i ($\times 10^{-3}$ mm)	1						
	2						
	3						
⑥ 膨張率 (%) $\frac{(\text{④}-\text{⑤})-(\text{②}-\text{③})}{L} \times 100$	1						
	2						
	3						
	平均						
判 定							
精 度							
考 察							

(土質関係)

様式 23

土の含水比試験
(JIS A 1203、JGS0121)

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 _____

工種名 _____ 試料採取地点 _____ 測定者 _____ 印 _____

試料番号(深さ)					
容器 NO.					
m_a g					
m_b g					
m_c g					
w %					
平均値 w %					
特記事項					

試料番号(深さ)					
容器 NO.					
m_a g					
m_b g					
m_c g					
w %					
平均値 w %					
特記事項					

試料番号(深さ)					
容器 NO.					
m_a g					
m_b g					
m_c g					
w %					
平均値 w %					
特記事項					

試料番号(深さ)					
容器 NO.					
m_a g					
m_b g					
m_c g					
w %					
平均値 w %					
特記事項					

試料番号(深さ)					
容器 NO.					
m_a g					
m_b g					
m_c g					
w %					
平均値 w %					
特記事項					

$$w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

m_a : (試料+容器)質量
 m_b : (炉乾燥試料+容器)質量
 m_c : 容器質量

砂置換法による土の密度試験(校正)
(JIS A 1214)

工事名 _____ 受注会社名 _____ 試験日 平成 年 月 日

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

I. ジャーとピクノメータートップとの体積の校正

測定 NO.	1	2	3	4	5
ジャーとピクノメータートップに水を満たした質量 m_2 g					
測定器の質量 m_1 g					
満たした水の質量 $m_2 - m_1$ g					
測定器中の水の温度 t °C					
t °Cにおける水1g当たりの体積 K cm ³ /g					
ジャーとピクノメータートップとの体積 $V_1 = K(m_2 - m_1)$ cm ³					
平均値 V_1 cm ³					

II. 試験用砂の乾燥密度の校正

測定 NO.	1	2	3	4	5
ジャーとピクノメータートップに砂を満たした質量 m_3 g					
測定器の質量 m_1 g					
測定器中の砂の質量 $m_4 = m_3 - m_1$ g					
試験用砂の乾燥密度 $\rho_{ds} = m_4 / V_1$ g/cm ³					
平均値 ρ_{ds} g/cm ³					

III. 漏斗を満たすのに必要な砂の質量の校正

測定 NO.	1	2	3	4	5
測定器と入れた砂の質量 m_3' g					
漏斗を満たした砂を除き測定器と残った砂の質量 m_5 g					
漏斗を満たすのに必要な砂の質量 $m_6 = m_3' - m_5$ g					
平均値 m_6 g					

特記事項

砂置換法による土の密度試験(測定)
(JIS A 1214)

工事名 _____ 受注会社名 _____ 試験日 平成 年 月 日

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

測定器 NO.		土質名称	
試験用砂の乾燥密度 ρ_{ds}	g/cm ³	漏斗を満たすのに必要な砂の質量 m_6	g
試験孔 NO.			
最大粒径	mm		
容器 NO.			
容器質量	g		
(試験孔から取り出した土 + 容器) 質量	g		
試験孔から取り出した湿潤土の質量 m_7	g		
試験孔から取り出した土の炉乾燥質量 $m_0 = 100m_7 / (w + 100)$	g		
ジャーとピクノメータトップに砂を満たした質量 m_3	g		
測定器と残った砂の質量 m_8	g		
試験孔および漏斗に入れた砂の質量 $m_9 = m_3 - m_8$	g		
試験孔を満たすのに要する砂の質量 $m_{10} = m_9 - m_6$	g		
試験孔の体積 $V_0 = m_{10} / \rho_{ds}$	cm ³		
湿潤密度 $\rho_t = m_7 / V_0$	g/cm ³		
乾燥密度 $\rho_d = m_0 / V_0$	g/cm ³		
容器 NO.			
(試料 + 容器) 質量 m_a	g		
(炉乾燥試料 + 容器) 質量 m_b	g		
容器質量 m_c	g		
w	%		
容器 NO.			
(試料 + 容器) 質量 m_a	g		
(炉乾燥試料 + 容器) 質量 m_b	g		
容器質量 m_c	g		
w	%		
平均値 w	%		
含水比 w	%		
湿潤密度 ρ_t	g/cm ³		
乾燥密度 ρ_d	g/cm ³		

特記事項

$$w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

土の収縮定数試験
(JIS A 1209、JGS 0145)

工事名 _____ 受注会社名 _____ 試験日 平成 年 月 日

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試料番号 (深さ)						
測定 NO.						
収縮皿 NO.						
湿潤試料の体積	ガラス板の質量 m_g g					
	収縮皿の質量 m_c g					
	水の入った収縮皿とガラス板の質量 m g					
	水の温度 T °C					
	水の密度 ρ_w g/cm ³					
	湿潤試料の体積 V cm ³					
炉乾燥試料の体積	パラフィン塗布後の試料の質量 m_1 g					
	水中における吊り皿の見掛けの質量 m_2 g					
	水中における試料および吊り皿の見掛け質量 m_3 g					
	炉乾燥試料の質量 m_s g					
	パラフィンの密度 ρ_p g/cm ³					
	炉乾燥試料の体積 V_o cm ³					
含水比	湿潤試料と収縮皿の質量 m_a g					
	湿潤試料の含水比 w %					
	平均値 w %					
収縮限界	収縮限界 w_s %					
	平均値 w_s %					
収縮比	収縮比 R					
	平均値 R					
ある含水比 w_1 %						
体積収縮率 C %						
線収縮 L_s %						

特記事項

$$V = \frac{(m - m_c - m_g)}{\rho_w}$$

$$w_s = w - \frac{(V - V_o) \rho_w}{m_s} \times 100$$

$$R = \frac{m_c}{V_o \cdot \rho_w}$$

$$C = (w_1 - w_s)R$$

$$V_o = \frac{(m_1 - m_3 + m_2)}{\rho_w} - \frac{(m_1 - m_c)}{\rho_s}$$

$$w = \frac{(m_s - m_c - m_g)}{m_s} \times 100$$

$$L_s = \left[1 - \sqrt[3]{\frac{100}{C + 100}} \right] \times 100$$

CBR試験(初期状態、吸水膨張試験)
(JIS A 1211、JGS 0721)

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 _____

試料採取地点 _____ 採取日 平成 年 月 日 測定者 _____ 印 _____

試験方法	締固めた土、乱さない土	ランマー質量	kg		土質名称	
突き固め方法		落下高さ	cm		自然含水比 w_n	%
試料準備	準備方法	非乾燥法、空気乾燥法	突固め回数	回/層	最適含水比 w_{opt}	%
	空気乾燥前含水比	%	突固め層数	層	最大乾燥密度 ρ_{dmax}	g/cm ³
	試料調整後含水比 w_o	%	モールド	内径	kg	荷重板質量
			高さ ¹⁾	cm	モールド容量 V	cm ³
供試体 NO. _____						
含水比	容器 NO. _____					
	(試料+容器)質量 m_a		g			
	(炉乾燥試料+容器)質量 m_b		g			
	容器質量 m_c		g			
	含水比 w_1		%			
平均値 w_1		%				
密度	(試料+モールド)質量 $m_2^{2)}$		g			
	モールド質量 $m_1^{2)}$		g			
	湿潤密度 ρ_t		g/cm ³			
	乾燥密度 ρ_d		g/cm ³			
吸水膨張試験	水浸時間 h	時刻	変位計の読み	膨張量mm	変位計の読み	膨張量mm
	0					
	1					
	2					
	4					
	8					
	24					
	48					
	72					
	96					
	(試料+モールド)質量 $m_3^{2)}$		g			
	膨張比 γ_e		%			
	湿潤密度 ρ_t'		g/cm ³			
	乾燥密度 ρ_d'		g/cm ³			
	平均含水比 w'		%			

特記事項

1) スペーサーディスクの高さを差引く

2) モールドの質量は有孔底板を含む

$$\gamma_e = \frac{\text{供試体の膨張量 (mm)}}{\text{供試体の最初の高さ (125mm)}} \times 100$$

$$\rho_t' = \frac{m_3 - m_1}{\sqrt{(1 + \gamma_e/100)}} \quad \rho_t = \frac{m_2 - m_1}{V}$$

$$\rho_d' = \frac{\rho_d}{1 + \gamma_e/100} \quad \rho_d = \frac{\rho_t}{1 + w_1/100}$$

$$w' = \left[\frac{\rho_t'}{\rho_d'} - 1 \right] \times 100 \quad w_1 = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

C B R 試 験 (貫 入 試 験)
(JIS A 1211、JGS 0721)

工 事 名 _____ 試験日 平成 年 月 日 _____ 受注会社名 _____

試料採取地点 _____ 採取日 平成 年 月 日 _____ 測定者 _____ 印 _____

試 験 条 件		水浸、非水浸		貫入速さ mm/min				荷重板質量 kg							
養 生 条 件		日 空 気 中		荷 重 計 NO.				貫入スピンドルの断面積 cm ²							
		日 水 浸		容 量 kN				較正係数 $\frac{MN/m^2}{目盛}$ $\frac{kN}{目盛}$							
供 試 体 NO.				供 試 体 NO.				供 試 体 NO.							
貫 入 量 mm		荷重強さ、荷重		貫 入 量 mm		荷重強さ、荷重		貫 入 量 mm		荷重強さ、荷重					
読 み		平均	荷重計 の読み	MN/m ² kN	読 み		平均	荷重計 の読み	MN/m ² kN	読 み		平均	荷重計 の読み	MN/m ² kN	
1	2				1	2				1	2				
0					0					0					
0.5					0.5					0.5					
1.0					1.0					1.0					
1.5					1.5					1.5					
2.0					2.0					2.0					
2.5					2.5					2.5					
3.0					3.0					3.0					
4.0					4.0					4.0					
5.0					5.0					5.0					
7.5					7.5					7.5					
10.0					10.0					10.0					
12.5					12.5					12.5					
貫入試験後の 含水比	容器NO.				貫入試験後の 含水比	容器NO.				貫入試験後の 含水比	容器NO.				
	m _a g					m _a g					m _a g				
	m _b g					m _b g					m _b g				
	m _c g					m _c g					m _c g				
	w ₂ %					w ₂ %					w ₂ %				
	平均値 w ₂ %					平均値 w ₂ %					平均値 w ₂ %				

特記事項

$$w_2 = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

m_a : (試料+容器)質量

m_b : (炉乾燥試料+容器)質量

m_c : 容器質量

[1MN/m² ≒ 10.2kgf/cm²]

[1kN ≒ 102kgf]

CBR試験(室内試験結果)
(JIS A 1211、JGS 0721)

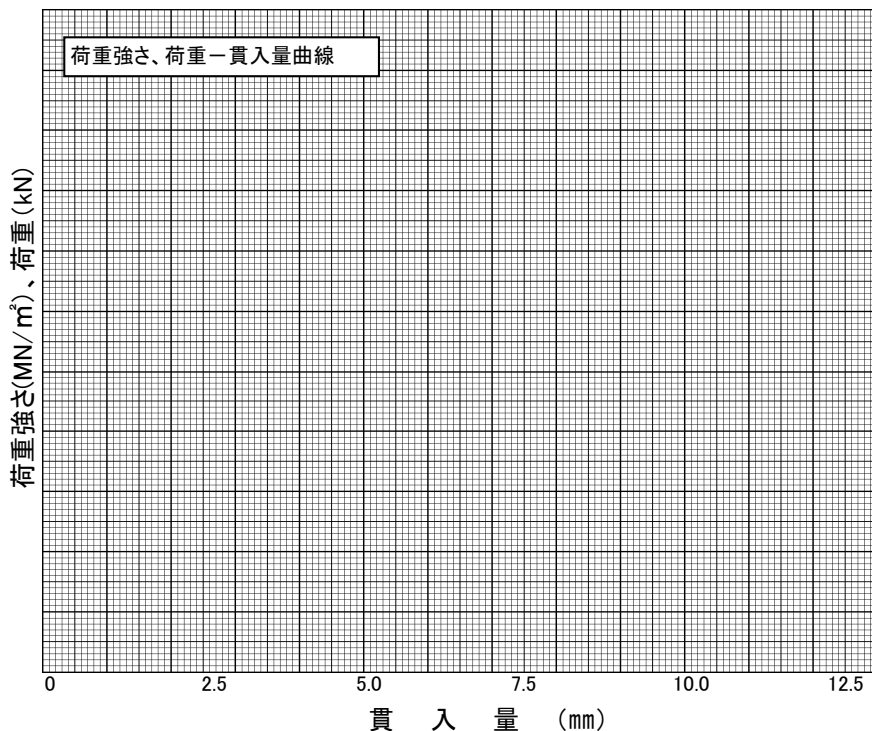
工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 _____

試料採取地点 _____ 採取日 平成 年 月 日 測定者 _____ 印 _____

試験方法	締固めた土、乱さない土	ランマー質量	kg		土質名称	
突固め方法		落下高さ	cm		空気乾燥前含水比	%
試料の準備方法	非乾燥法、空気乾燥法	突固め回数	回/層		自然含水比 w	%
試験条件	水浸、非水浸	突固め層数	層		最適含水比 w_{opt}	%
養生条件	日空气中	モールド	内径	cm	最大乾燥密度 ρ_{dmax}	g/cm ³
	日水浸		高さ ¹⁾	cm		

供試体 NO.				
吸水膨張試験	前	含水比 w	%	
		乾燥密度 ρ_d	g/cm ³	
	後	膨張比 γ_e	%	
		平均含水比 w'	%	
		乾燥密度 ρ'_d	g/cm ³	
貫入試験		試験後の含水比 w_2	%	
		貫入量2.5mmにおけるCBR	%	
		貫入量5.0mmにおけるCBR	%	
		CBR	%	

平均CBR %



特記事項
1) スペーサーディスクの高さを差引く。

[1MN/m² ≒ 10.2kgf/cm²]
[1kN ≒ 102kgf]

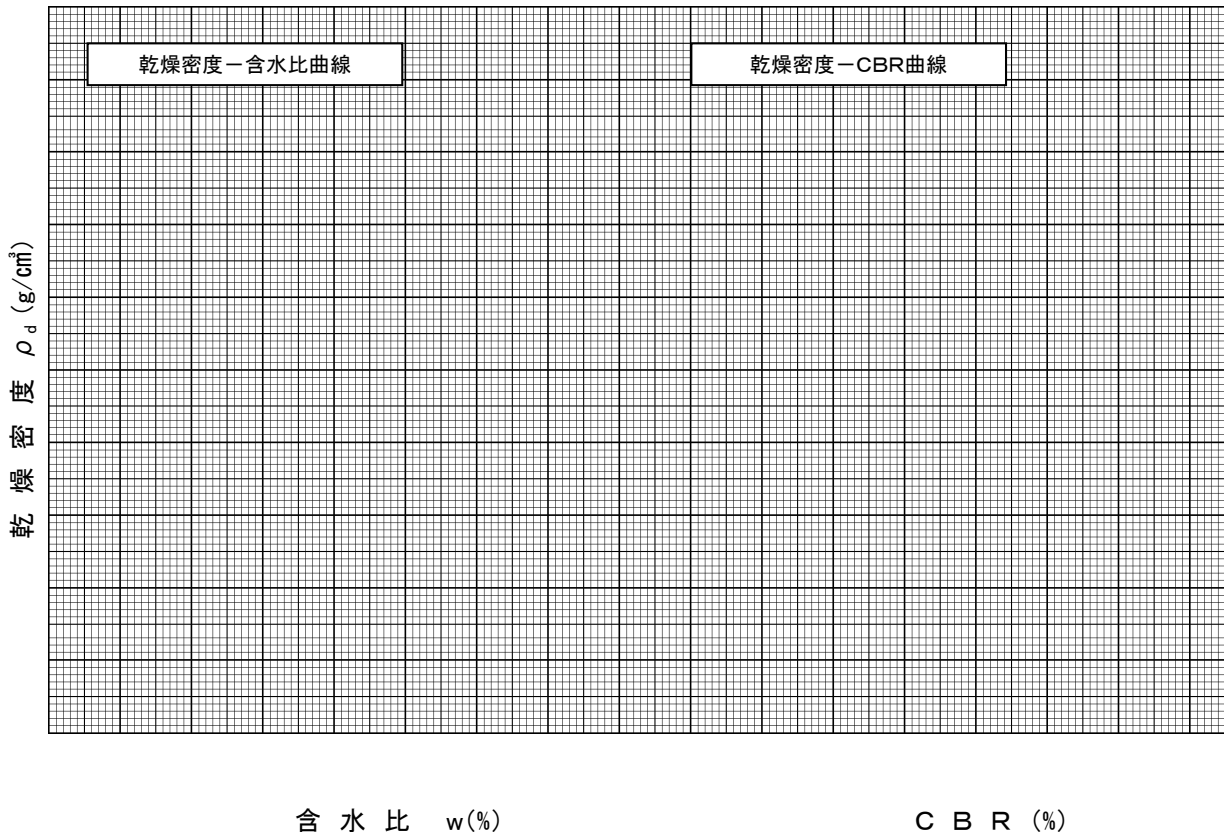
貫入量mm		2.5	5.0
荷重強さ重	供試体 NO.		
	供試体 NO.		
	供試体 NO.		
標準荷重強さ MN/m ²		6.9	10.3
標準荷重 kN		13.4	19.9

修正 C B R 試験

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 _____

試料採取地点 _____ 採取日 平成 年 月 日 測定者 _____ 印 _____

突固め回数	回/層	(層)			(層)			(層)		
供試体 NO.										
乾燥密度 ρ_d	g/cm ³									
平均値 ρ_d	g/cm ³									
貫入量2.5mmにおけるCBR	%									
平均値	%									
貫入量5.0mmにおけるCBR	%									
平均値	%									
ランマー質量	kg	最大乾燥密度 ρ_{dmax} g/cm ³			締固め度 %					
		最適含水比 w_{opt} %			修正CBR %					



特記事項 _____

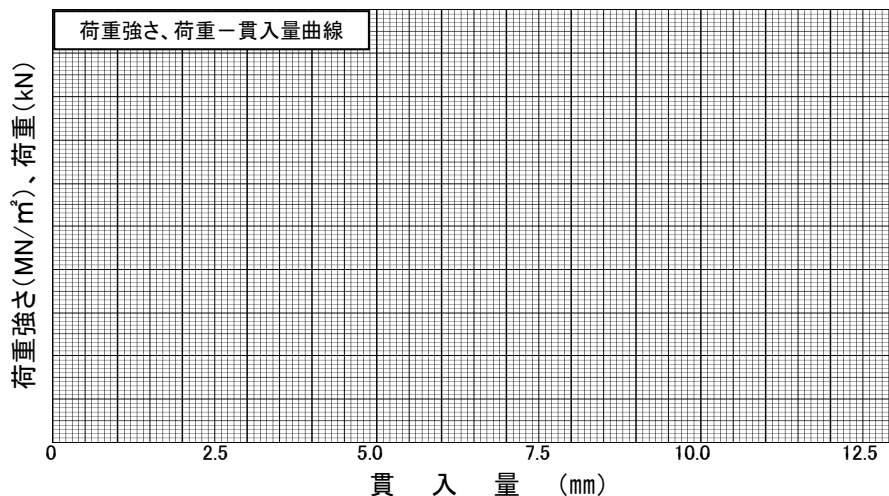
現場 C B R 試験
(JIS A 1222)

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 _____ 受注会社名 _____

試料採取地点 _____ 採取日 平成 年 月 日 _____ 測定者 _____ 印 _____

貫入スピンドル直径 cm		貫入スピンドル面積 m ²		貫入速度 mm/min	
ジャッキの種類		ジャッキの能力 kN		反力装置の種類	
荷重計容量 kN		荷重計の 校正係数 MN/m ² /目盛 kN/目盛		天	候

測点 NO.				測点 NO.					
貫入量の読み mm		貫入量の読み の平均値 mm	荷重計の 読み	荷重強さ, 荷重 MN/m ² ,kN	貫入量の読み mm		貫入量の読み の平均値 mm	荷重計の 読み	荷重強さ, 荷重 MN/m ² ,kN
1	2				1	2			
0.0					0.0				
0.5					0.5				
1.0					1.0				
1.5					1.5				
2.0					2.0				
2.5					2.5				
3.0					3.0				
4.0					4.0				
5.0					5.0				
7.5					7.5				
10.0					10.0				
12.5					12.5				
貫入量2.5mmにおけるCBR				%	貫入量2.5mmにおけるCBR				%
貫入量5.0mmにおけるCBR				%	貫入量5.0mmにおけるCBR				%
CBR				%	CBR				%
試験箇所の含水比 w				%	試験箇所の含水比 w				%



貫入量mm	2.5	5.0
荷重強さ重		
標準荷重強さ MN/m ²	6.9	10.3
標準荷重 kN	13.4	19.9

特記事項

[1kN ≒ 102kgf]
[1MN/m² ≒ 10.2kgf/cm²]

(社)地盤工学会規格準用

道路の平板載荷試験
(JIS A 1215)

試験日 平成 年 月 日

工事名

測定番号

受注会社名

工事種名

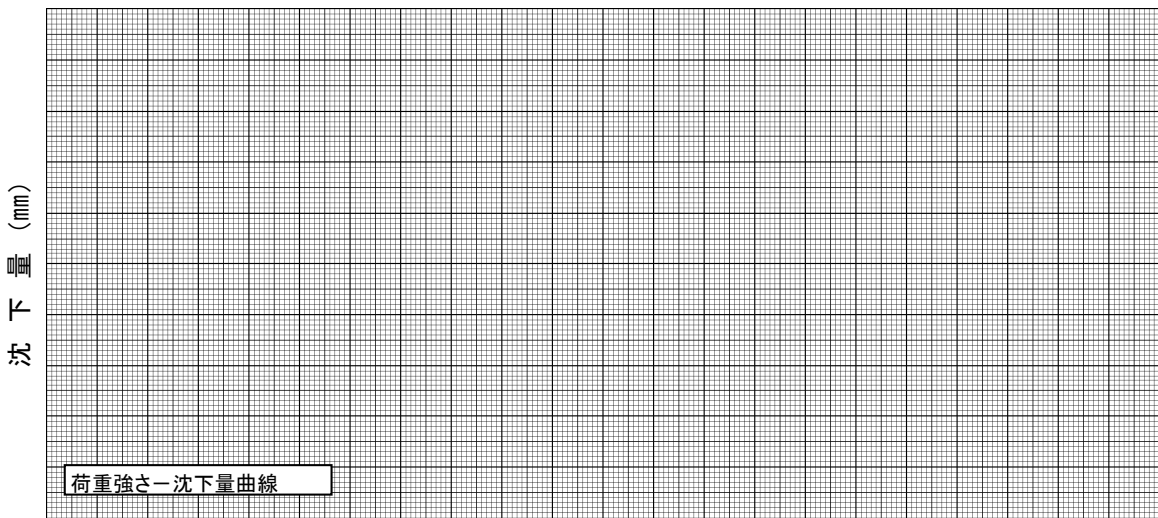
測定場所

測定者 印

載荷板の形状	載荷板の直径 cm	載荷板の面積 A m ²
ジャッキの種類	ジャッキの能力 kN	反力装置の種類
荷重計容量 kN	荷重計の校正係数 K kN/m ² /目盛	天 候
計算に用いた沈下量 Smm	荷重強さ p kN/m ²	地盤反力係数 K _s MN/m ²

時間	荷重計の読み R	荷重強さ p=KR kN/m ²	変位計の読み mm				沈下量 mm
			1	2	3	4	

荷重強さ (kN/m²)



特記事項

$K_s = p/S$
 $[1\text{kN/m}^2 \doteq 0.0102\text{kgf/cm}^2]$
 $[1\text{MN/m}^2 \doteq 0.102\text{kgf/cm}^2]$

土の直接せん断試験

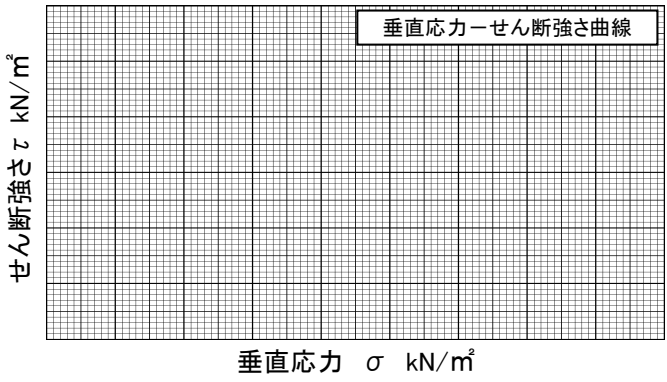
工事名 _____
 調査名・目的 _____
 試料番号 _____
 試料 _____ ・乱さない ・乱した
 試料採取深さ _____
 試験機の型 _____
 供試体の断面積 _____ m²
 供試体初期厚さ _____ cm
 供試体初期体積 V _____ cm³
 水の密度 ρ_w _____ g/cm³

試験日 平成 年 月 日
 試験方法 : 圧密排水・圧密非排水・非圧密非排水
 せん断方法 : 応力制御・ひずみ制御
 せん断速さ (载荷速さ) _____ kN/m²/min
 せん断力測定用ブルーピングリング NO _____
 換算係数 _____ kN/ $\frac{1}{100}$ mm (kN/m²/目盛)
 先行圧密応力 _____ kN/m²
 土粒子の密度 G_s _____ g/cm³

受注会社名 _____

測定者 _____ 印

供試体番号		1	2	3	4	5	6
初期の状態	供試体質量 m	g					
	湿潤密度 ρ _t = $\frac{m}{V}$	g/cm ³					
	含水比 w	%					
	乾燥密度 ρ _d = $\frac{100 \cdot \rho_t}{100 + w}$	g/cm ³					
	間隙比 e = $\frac{G_s \cdot \rho_w}{\rho_d} - 1$						
飽和度 s _r = w · G _s / e	%						
圧密の状態	せん断時の垂直応力 σ	kN/m ²					
	载荷(圧密)時間						
	沈下量	cm					
圧密後の状態	供試体体積 V'	cm ³					
	供試体質量 m'	g					
	湿潤密度 ρ _t = $\frac{m'}{V'}$	g/cm ³					
	含水比 w'	%					
	乾燥密度 ρ _d ' = $\frac{100 \cdot \rho_t'}{100 + w'}$	g/cm ³					
	間隙比 e' = $\frac{G_s \cdot \rho_w}{\rho_d'}$						
飽和度 s' _r = w' · G _s / e	%						
せん断時の垂直応力		kN/m ²					
せん断強さ τ		kN/m ²					



粘着力 C = _____ kN/m²
 内部摩擦角 φ = _____
 tan φ = _____
 先行圧密応力に対するせん断強さ
 τ₀ = _____ kN/m²

注) 含水比の測定は含水量測定試験試料は標準欄フルイ25.4mm _____ による

ポータブルコーン貫入試験
(JGS 1431)

試験日 平成 年 月 日

工事名	測定番号	受注会社名
工種名	測定場所	測定者 印
試験機の種類	荷重計容量 N	較正係数 KN/目盛
ロッド質量 m_1 kg	先端コーン質量 m_0 kg	コーン底面積 A m^2
貫入速度 cm/s	最終貫入深さ m	天候

測定深さ m	ロッド本数 n	荷重計読み値 D	貫入力 $Q_{rd}=KD$ N	コーン貫入抵抗 q_c kN/m ²	記事	深さ m	q_c kN/m ²			
							0	500	1000	1500

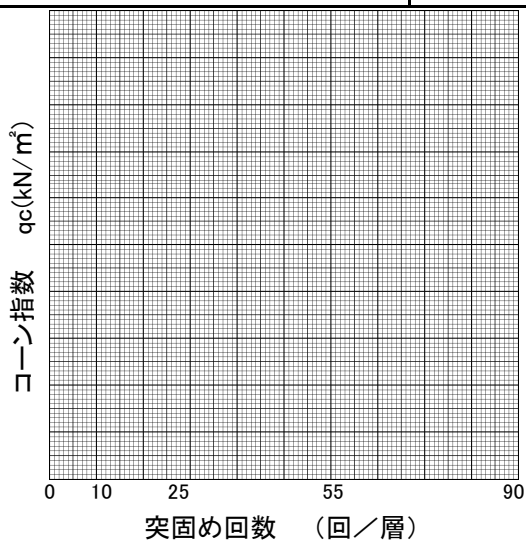
特記事項 $q_c = \{Q_{rd} + (m_0 + nm_1)9.81\} / 1000 / A$
[1kN/m² ≒ 0.0102kgf/cm²]

締固めた土のコーン指数試験
(JIS A 1228、JGS 0716)

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 _____

試料採取地点 _____ 採取日 平成 年 月 日 測定者 _____ 印 _____

土質名称		モールド	NO.		荷重計	NO.			
土粒子の密度 ρ_s g/cm ³			容量 V cm ³	1000		容量 N			
コーンの底面積 A m ²	3.24		(モールド+底板)質量 m ₁ g			較正係数 K N/目盛			
突固め回数 回/層		10	25	55	90				
含水比	容器 NO.								
	(試料+容器)質量 m _a g								
	(炉乾燥試料+容器)質量 m _b g								
	容器質量 m _c g								
	w %								
平均値 w %									
供試体	(供試体+モールド+底板)質量 m ₂ g								
	湿润密度 ρ_t g/cm ³								
	乾燥密度 ρ_d g/cm ³								
	飽和度 S _r %								
空気間隙率 U _a %									
コーン指数	貫入抵抗力 N	貫入量	荷重計の読み	貫入抵抗力	荷重計の読み	貫入抵抗力	荷重計の読み	貫入抵抗力	
		5 cm							
		7.5 cm							
	10 cm								
	平均貫入抵抗力 Q _c N								
コーン指数 q _c kN/m ²									



特記事項

1) 突固め回数が1種類の場合は記入の必要はない

水の密度 ρ_w g/cm³

$$w = [(m_a - m_b) / (m_b - m_c)] \times 100$$

$$\rho_t = \frac{m_2 - m_1}{V}$$

$$\rho_d = \frac{\rho_t}{1 + w/100}$$

$$S_r = \frac{w}{\rho_w / \rho_d - \rho_w / \rho_s}$$

$$U_a = \left\{ 1 - \frac{\rho_d}{\rho_w} \left[\frac{\rho_w}{\rho_s} + \frac{w}{100} \right] \right\} \times 100$$

$$q_c = \frac{Q_c}{A} \times 10$$

[1kN ≒ 102kgf]

[1kN/m² ≒ 0.0102kgf/cm²]

土の一軸圧縮試験(初期状態、軸圧縮過程)
(JIS A 1216、JGS 0511)

工事名 _____ 受注会社名 _____ 試験日 平成 年 月 日

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

ひずみ速度 %/min	荷重計 NO.		ひずみ速度 %/min	荷重計 NO.					
荷重計容量 N	校正係数 KN/目盛		荷重計容量 N	校正係数 KN/目盛					
供 試 体	NO.	試料の状態	供 試 体	NO.	試料の状態				
直径			直径						
高さ			高さ						
平均直径 D ₀ cm		断面積 A ₀ cm ²	平均直径 D ₀ cm		断面積 A ₀ cm ²				
平均高さ H ₀ cm		質量 m g	平均高さ H ₀ cm		質量 m g				
容器NO.		供試体の破壊状況 □□□□□□□□□□	容器NO.		供試体の破壊状況 □□□□□□□□□□				
m _a g			m _a g						
m _b g			m _b g						
m _c g			m _c g						
w %			w %						
平均値 w %			平均値 w %						
圧縮量 ΔH cm	圧縮ひずみ ε %	荷重計の読み	圧縮力 P N	圧縮応力 σ kN/m ²	圧縮量 ΔH cm	圧縮ひずみ ε %	荷重計の読み	圧縮力 P N	圧縮応力 σ kN/m ²

特記事項 $w = [(m_a - m_b) / (m_b - m_c)] \times 100$ $\varepsilon = (\Delta H / H_0) \times 100$
 m_a : (試料 + 容器) 質量 $\sigma = \frac{P}{A_0} (1 - \varepsilon / 100) \times 10$
 m_b : (炉乾燥試料 + 容器) 質量 [1kN/m² ≒ 0.0102kgf/cm²]
 m_c : 容器質量

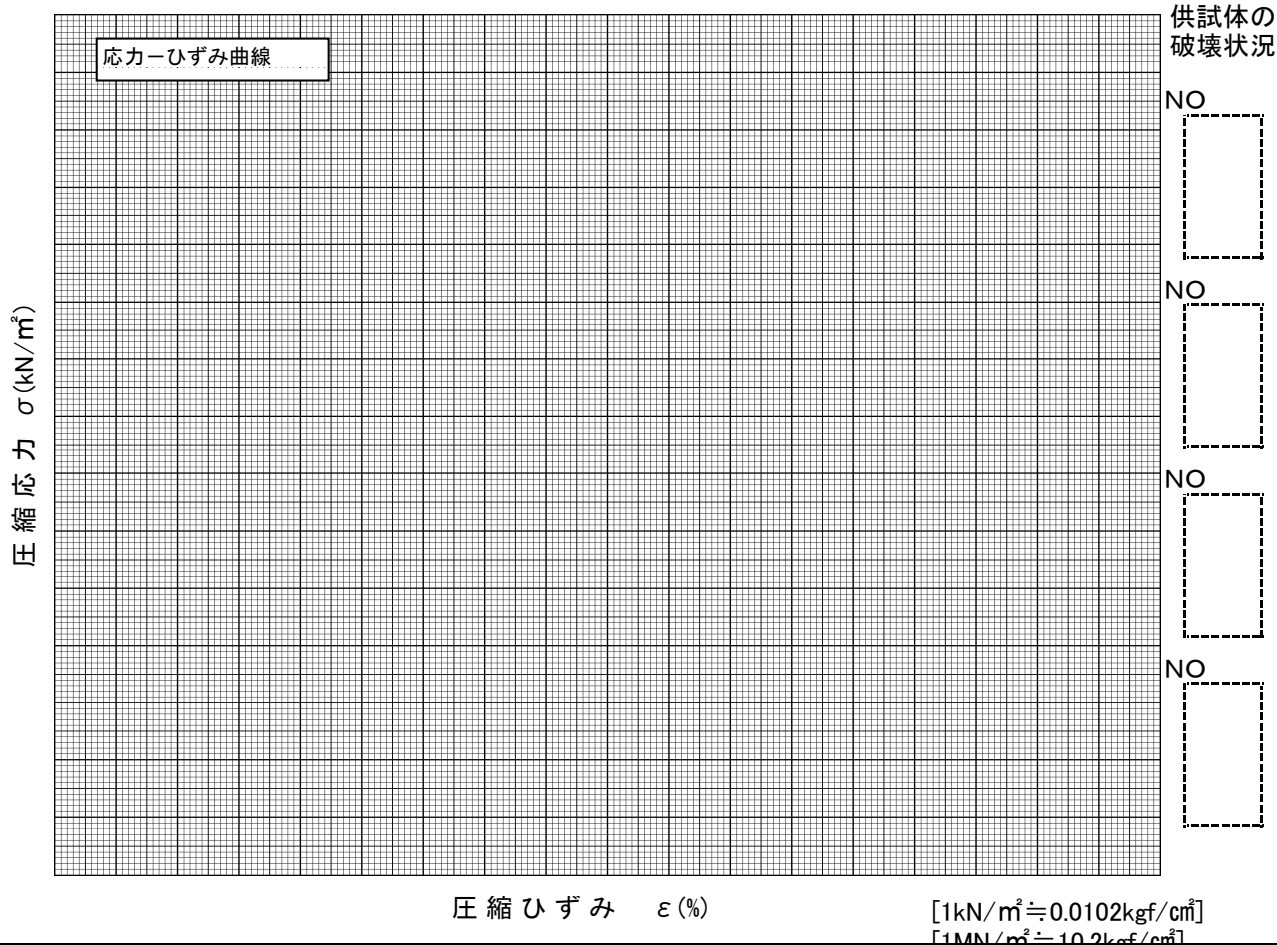
(社)地盤工学会規格準用

土の一軸圧縮試験(強度・変形特性)
(JIS A 1216、JGS 0511)

工事名 _____ 受注会社名 _____ 試験日 平成 年 月 日

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

土質名称		供試体 NO.			
液性限界 $w_L^{(1)}$ %		試験の状態			
塑性限界 $w_p^{(1)}$ %		高さ H_0 cm			
ひずみ速度 %/min		直径 D_0 cm			
特記事項 1) 必要に応じて記載する。 $E_{50} = \frac{q_u}{\frac{2}{\epsilon_{50}}} / 10$		質量 m g			
		湿潤密度 $\rho_t^{(1)}$ g/cm ³			
		含水比 w %			
		一軸圧縮強さ q_u kN/m ²			
		破壊ひずみ ϵ_f %			
		変形係数 $E_{50}^{(1)}$ MN/m ²			
		鋭敏比 $S_t^{(1)}$			

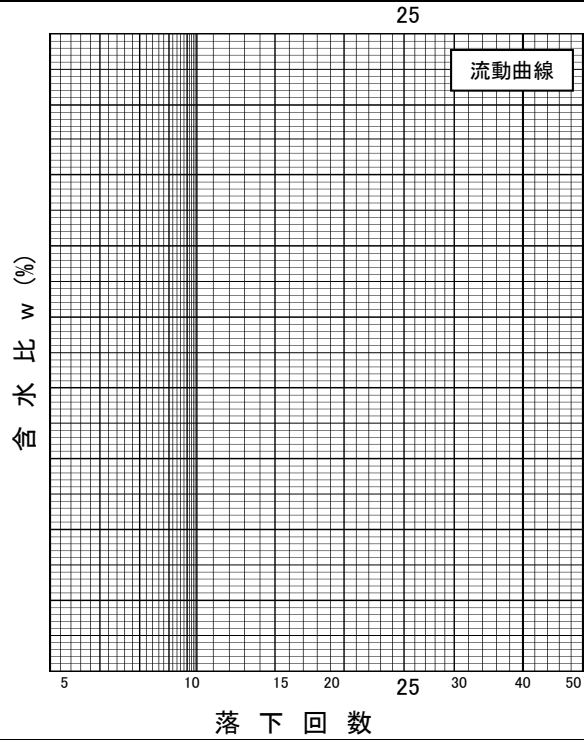


土の液性限界・塑性限界試験(測定)
(JIS A 1205、JGS 0141)

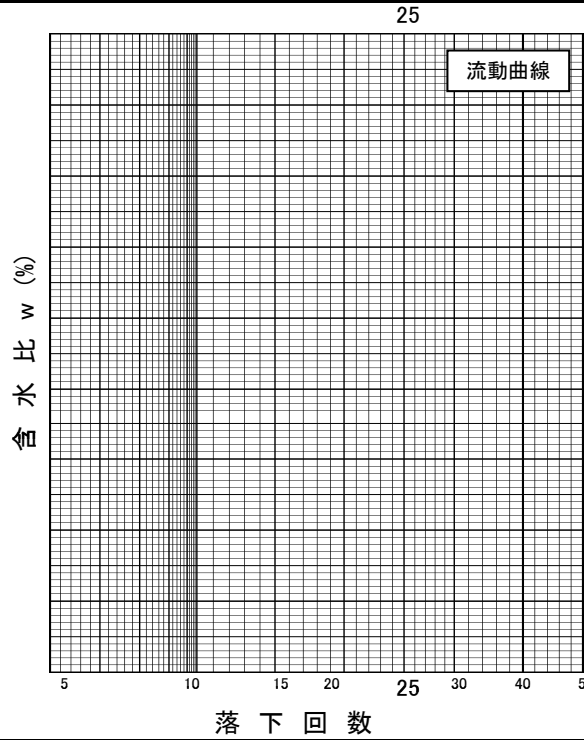
工事名 _____ 受注会社名 _____ 試験日 平成 年 月 日

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試料番号(深さ)			
液性限界試験			
落下回数	容器 NO.		
含水比	m _a g		
	m _b g		
	m _c g		
	w %		
落下回数	容器 NO.		
含水比	m _a g		
	m _b g		
	m _c g		
	w %		
塑性限界試験			
含水比	容器 NO.		
	m _a g		
	m _b g		
	m _c g		
w %			
液性限界 W _L %	塑性限界 W _P %	塑性指数 I _P	



試料番号(深さ)			
液性限界試験			
落下回数	容器 NO.		
含水比	m _a g		
	m _b g		
	m _c g		
	w %		
落下回数	容器 NO.		
含水比	m _a g		
	m _b g		
	m _c g		
	w %		
塑性限界試験			
含水比	容器 NO.		
	m _a g		
	m _b g		
	m _c g		
w %			
液性限界 W _L %	塑性限界 W _P %	塑性指数 I _P	



特記事項 _____ $I_P = W_L - W_P$ $w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$ m_a : (試料+容器)質量
 m_b : (炉乾燥試料+容器)質量
 m_c : 容器質量

土の液性限界・塑性限界試験(試験結果)
(JIS A 1205、JGS 0141)

工事名 _____ 受注会社名 _____ 試験日 平成 年 月 日

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試料番号(深さ)

液性限界試験		塑性限界試験	液性限界 W_L %
落下回数	含水比 w %	含水比 w %	
			塑性限界 W_p %
			塑性指数 I_p

試料番号(深さ)

液性限界試験		塑性限界試験	液性限界 W_L %
落下回数	含水比 w %	含水比 w %	
			塑性限界 W_p %
			塑性指数 I_p

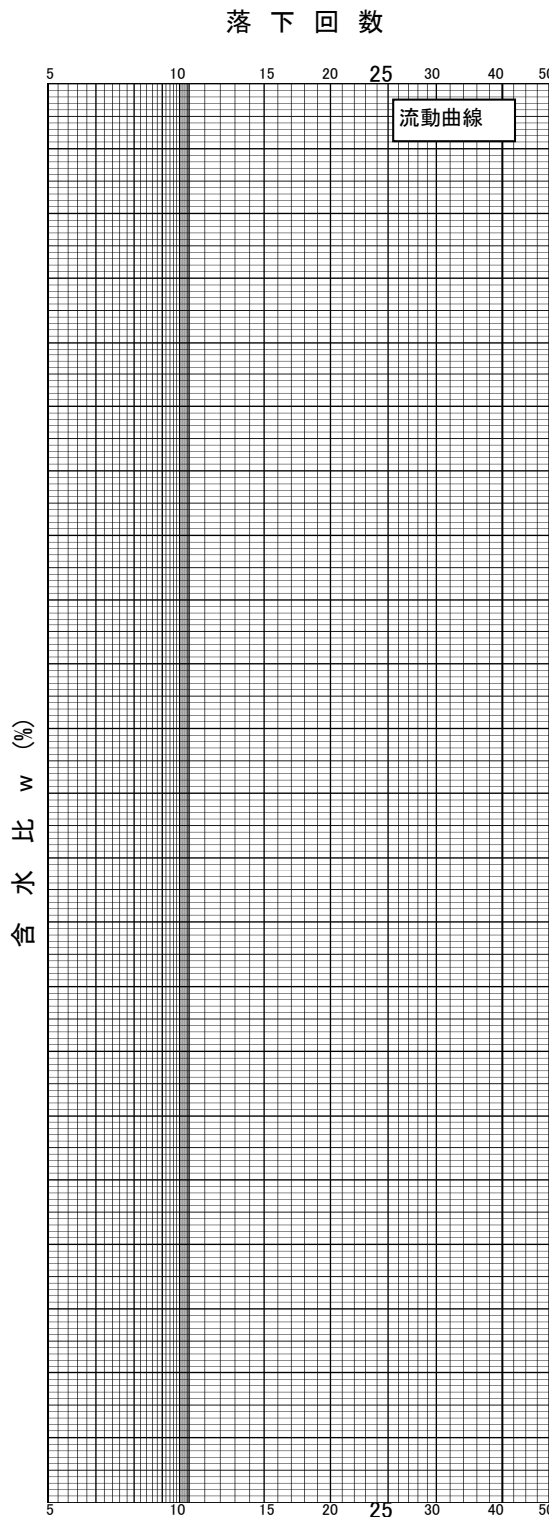
試料番号(深さ)

液性限界試験		塑性限界試験	液性限界 W_L %
落下回数	含水比 w %	含水比 w %	
			塑性限界 W_p %
			塑性指数 I_p

試料番号(深さ)

液性限界試験		塑性限界試験	液性限界 W_L %
落下回数	含水比 w %	含水比 w %	
			塑性限界 W_p %
			塑性指数 I_p

特記事項



土粒子の密度試験（検定、測定）
(JIS A 1202、JGS 0111)

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 _____

工種名 _____ 試料採取地点 _____ 測定者 _____ 印

試料番号（深さ）						
ピクノメーター NO.						
ピクノメーターの質量 m_f g						
(蒸留水+ピクノメーター)質量 m'_a g						
m'_a をはかったときの蒸留水の温度 T' °C						
T' °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T')$ g/cm ³						
(試料+蒸留水+ピクノメーター)質量 m_b g						
m_b をはかったときの内容物の温度 T °C						
T °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T)$ g/cm ³						
温度 T °Cの蒸留水を満たしたときの (蒸留水+ピクノメーター)質量 m_a g						
試料の 炉乾燥質量	容器 NO.					
	(炉乾燥試料+容器)質量 g					
	容器質量 g					
m_s g						
土粒子の密度 ρ_s g/cm ³						
平均値 ρ_s g/cm ³						

試料番号（深さ）						
ピクノメーター NO.						
ピクノメーターの質量 m_f g						
(蒸留水+ピクノメーター)質量 m'_a g						
m'_a をはかったときの蒸留水の温度 T' °C						
T' °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T')$ g/cm ³						
(試料+蒸留水+ピクノメーター)質量 m_b g						
m_b をはかったときの内容物の温度 T °C						
T °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T)$ g/cm ³						
温度 T °Cの蒸留水を満たしたときの (蒸留水+ピクノメーター)質量 m_a g						
試料の 炉乾燥質量	容器 NO.					
	(炉乾燥試料+容器)質量 g					
	容器質量 g					
m_s g						
土粒子の密度 ρ_s g/cm ³						
平均値 ρ_s g/cm ³						

特記事項

$$m_a = \frac{\rho_w(T)}{\rho_w(T')} \times (m'_a - m_f) + m_f$$

$$\rho_s = \frac{m_s}{m_s + (m_a - m_b)} \times \rho_w(T)$$

土の粒度試験（ふるい分析）
(JIS A 1204、JGS 0131)

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 _____

工種名 _____ 試料採取地点 _____ 測定者 _____ 印 _____

全 試 料				2mmふるい通過試料(沈降分析を行わない場合)			
含 水 比	容器 NO.			含 水 比	容器 NO.		
	m_a g				m_a g		
	m_b g				m_b g		
	m_c g				m_c g		
	w %				w_1 %		
平均値w %				平均値 w_1 %			
(全試料+容器)質量 g				(2mmふるい通過試料+容器)質量 g			
容器(NO.)質量 g				容器(NO.)質量 g			
全試料質量 m g				2mmふるい通過試料の質量 m_i g			
全試料の炉乾燥質量 $m_s = \frac{m}{1+w/100}$ g				2mmふるい通過試料の炉乾燥質量 $m_{is} = \frac{m_i}{1+w_1/100}$ g			
2mmふるい残留分の水洗い後の試料	(試料+容器)質量 g			全試料の炉乾燥質量に対する2mmふるい通過試料の炉乾燥質量比	$\frac{m_s - m_{os}}{m_s}$		
	容器(NO.)質量 g						
	炉乾燥質量 m_{os} g						

2mmふるい残留分 m_{os} のふるい分析

ふるい	容器No.	(残留試料+容器)質量	容器質量	残留試料質量	加積残留試料質量	加積残留率	通過質量百分率P(d)
mm		g	g	$m(d)$ g	$\Sigma m(d)$ g	$\frac{\Sigma m(d)}{m_s} \times 100$ %	$(1 - \frac{\Sigma m(d)}{m_s}) \times 100$ %
75							
53							
37.5							
26.5							
19							
9.5							
4.75							
2							

2mmふるい通過分 m_{is} のふるい分析(沈降分析を行わない場合)

ふるい	容器No.	(残留試料+容器)質量	容器質量	残留試料質量	加積残留試料質量	加積残留率	加積通過率P	通過質量百分率P(d)
μm		g	g	$m(d)$ g	$\Sigma m(d)$ g	$\frac{\Sigma m(d)}{m_{is}} \times 100$ %	$(1 - \frac{\Sigma m(d)}{m_{is}}) \times 100$ %	$\frac{m_s - m_{os}}{m_s} \times P$ %
850								
425								
250								
106								
75								

特記事項 $w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$ m_a : (試料+容器)質量 m_c : 容器質量
 m_b : (炉乾燥試料+容器)質量

土の粒度試験(2mmふるい通過分分析)
(JIS A 1204、JGS 0131)

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 _____

工種名 _____ 試料採取地点 _____ 測定者 _____ 印 _____

2mmふるい通過試料				土粒子の密度 ρ_s g/cm ³
含水比	容器 NO.			塑性指数 I_p
	m_a g			分散装置の容器 NO.
	m_b g			メスシリンダー NO.
	m_c g			浮ひょう NO.
	w_1 %			メニスカス補正值 C_m
平均値 w_1 %				使用した分散剤、溶液濃度、溶液添加量
(沈降分析用試料+容器)質量 g				
容器 (NO.) 質量 g				全試料の炉乾燥質量に対する2mmふるい通過試料の炉乾燥質量の比 $\frac{m_s - m_{os}}{m_s}$
沈降分析用試料質量 m_1 g				
沈降分析用試料の炉乾燥質量 $m_{1s} = \frac{m_1}{1 + w_1/100}$ g				$M = \frac{V}{m_{1s}} \cdot \frac{\rho_s}{\rho_s - \rho_w} \rho_w \times 100$

沈降分析

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
測定時間	経過時間	浮ひょうの読み		測定時の水温	有効深さ	粒径 d	補正係数	加積通過率 P	通過質量百分率 $P(d)$
	t min	小数部分 r	$r + C_m$	T °C	L mm	$\sqrt{\frac{30\eta}{g(\rho_s - \rho_w)}} \times \sqrt{\frac{L}{t}}$ mm	F	$M \times ((3) + F)$ %	$\frac{m_s - m_{os}}{m_s} \times P$ %
	1								
	2								
	5								
	15								
	30								
	60								
	240								
	1440								

ふるい分析(沈降分析を行う場合)

ふるい	容器No.	(残留試料+容器)質量	容器質量	残留試料質量	加積残留試料質量	加積残留率	加積通過率 P	通過質量百分率 $P(d)$
μm		g	g	$m(d)$ g	$\Sigma m(d)$ g	$\frac{\Sigma m(d)}{m_{1s}} \times 100$ %	$(1 - \frac{\Sigma m(d)}{m_{1s}}) \times 100$ %	$\frac{m_s - m_{os}}{m_s} \times P$ %
850								
425								
250								
106								
75								

特記事項

懸濁液の体積 $V = 1000 \text{ cm}^3$

$w = [(m_a - m_b) / (m_b - m_c)] \times 100$

$T^\circ\text{C}$ に対する水の密度 ρ_w g/cm³

m_a : (試料+容器)質量

$T^\circ\text{C}$ に対する水の粘性係数 η $\text{Pa}\cdot\text{s}$

m_b : (炉乾燥試料+容器)質量

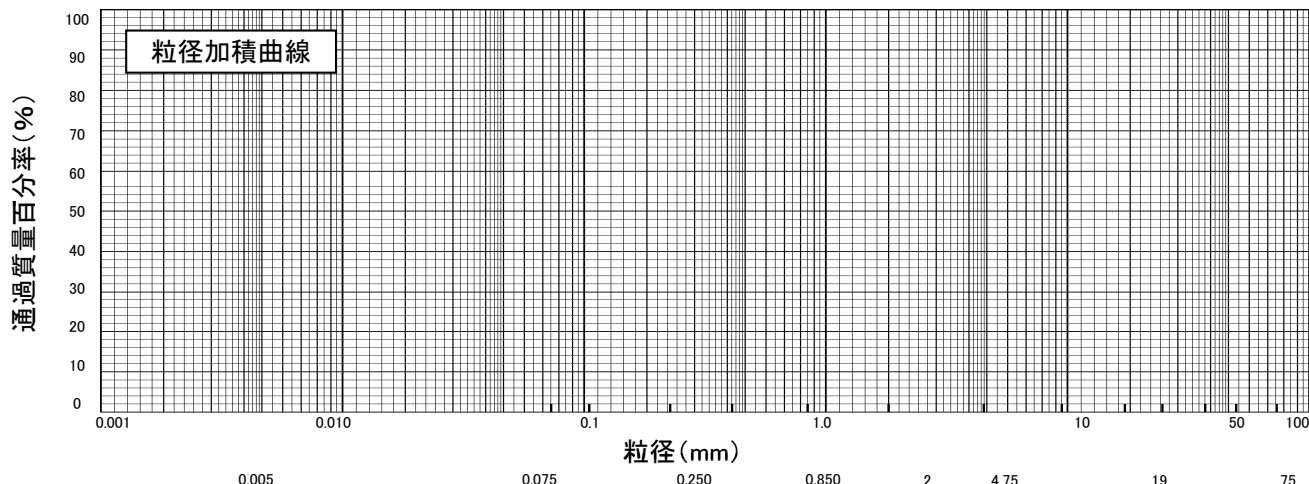
m_c : 容器質量

土の粒度試験（粒径加積曲線）
(JIS A 1204、JGS 0131)

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 _____

工種名 _____ 試料採取地点 _____ 測定者 _____ 印 _____

試料番号 (深さ)					試料番号 (深さ)			
	粒径mm	通過質量百分率%	粒径mm	通過質量百分率%	粗 礫 分 %			
ふるい分析	75		75		中 礫 分 %			
	53		53		細 礫 分 %			
	37.5		37.5		粗 砂 分 %			
	26.5		26.5		中 砂 分 %			
	19		19		細 砂 分 %			
	9.5		9.5		シルト分 %			
	4.75		4.75		粘土分 %			
	2		2		2mmふるい通過質量百分率 %			
	0.850		0.850		425 μ mふるい通過質量百分率 %			
	0.425		0.425		75 μ mふるい通過質量百分率 %			
	0.250		0.250		最大粒径 mm			
	0.106		0.106		60% 粒径 D_{60} mm			
	0.075		0.075		50% 粒径 D_{50} mm			
	沈降分析					30% 粒径 D_{30} mm		
					10% 粒径 D_{10} mm			
					均等係数 U_C			
					曲率係数 U_C			
					土粒子の密度 ρ_s g/cm ³			
					使用した分散剤、溶液濃度、溶液添加量			



特記事項 _____

(社)地盤工学会規格準用

突固めによる土の締固め試験(測定)
(JIS A 1210、JGS 0711)

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 _____

工種名 _____ 試料採取地点 _____ 測定者 _____ 印

試験方法		土質名称				
試料の準備方法	乾燥法、湿潤法	ランマー質量	kg	モールド	内径	cm
試料の使用法	繰返し法、非繰返し法	落下高さ	cm		高さ ¹⁾	cm
含水比	試料分取後 w_0 %	突固め回数	回/層		容量 V	cm^3
	乾燥処理後 w_1 %	突固め層数	層		質量 m_1 ²⁾	g

測定 NO.		1	2	3	4
(試料+モールド)質量 m_2 ²⁾	g				
湿潤密度 ρ_t	g/cm^3				
平均含水比 w	%				
乾燥密度 ρ_d	g/cm^3				

含水比	容器 NO.				
	(試料+容器)質量 m_a	g			
	(炉乾燥試料+容器)質量 m_b	g			
	容器質量 m_c	g			
	w	%			
含水比	容器 NO.				
	(試料+容器)質量 m_a	g			
	(炉乾燥試料+容器)質量 m_b	g			
	容器質量 m_c	g			
	w	%			

測定 NO.		5	6	7	8
(試料+モールド)質量 m_2 ²⁾	g				
湿潤密度 ρ_t	g/cm^3				
平均含水比 w	%				
乾燥密度 ρ_d	g/cm^3				

含水比	容器 NO.				
	(試料+容器)質量 m_a	g			
	(炉乾燥試料+容器)質量 m_b	g			
	容器質量 m_c	g			
	w	%			
含水比	容器 NO.				
	(試料+容器)質量 m_a	g			
	(炉乾燥試料+容器)質量 m_b	g			
	容器質量 m_c	g			
	w	%			

特記事項

- 1) 内径15cmのモールドの場合はスペーサーディスクの高さを差引く。
- 2) モールドの質量は底板を含む。

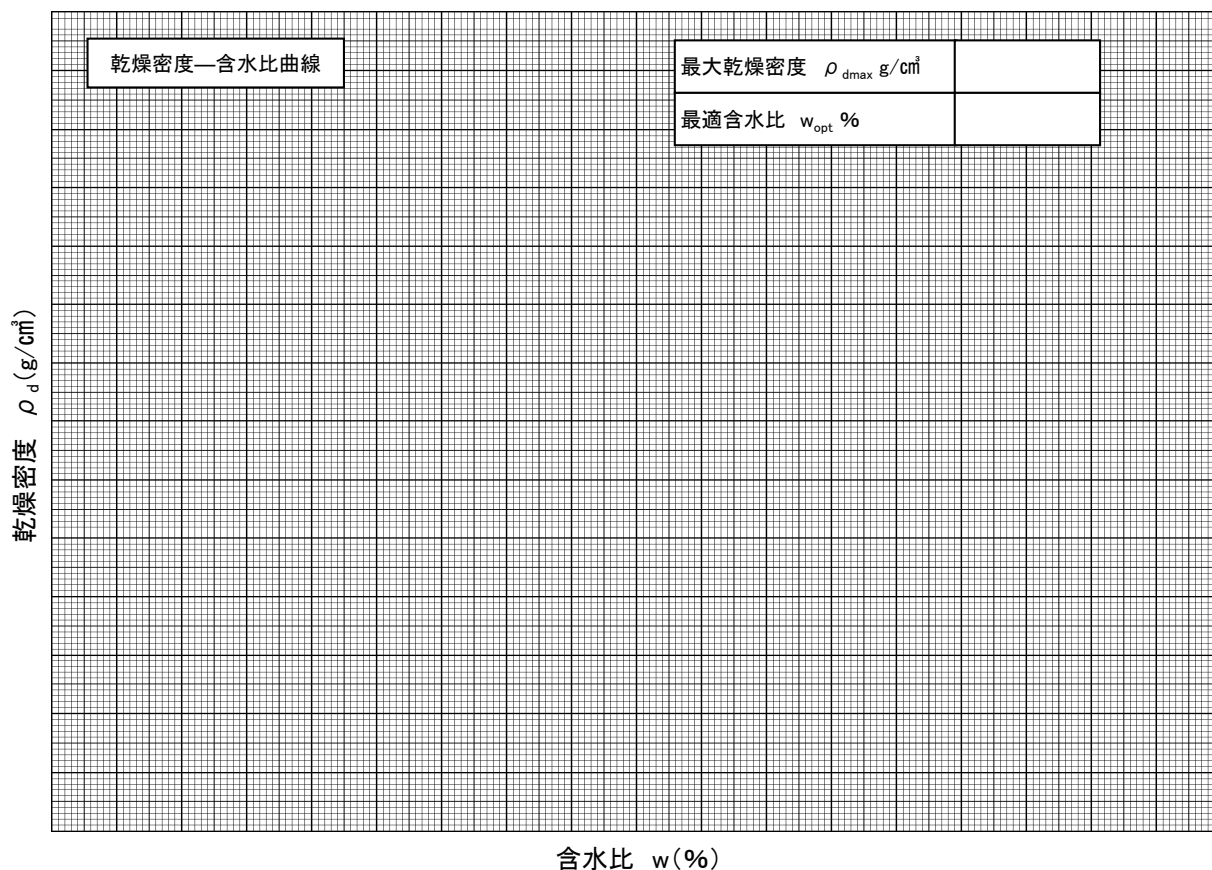
$$\rho_d = \frac{\rho_t}{1+w/100} \quad w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

突固めによる土の締固め試験(締固め特性)
(JIS A 1210、JGS 0711)

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 試料採取地点 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験方法		土質名称						
試料の準備方法		乾燥法、湿潤法	ランマー質量 kg			土粒子の密度 ρ_s g/cm ³		
試料の使用方法		繰返し法、非繰返し法	落下高さ cm			試料調製前の最大粒径 mm		
含水比	試料分取後 w_0 %	突固め回数 回/層				モールド	内径 cm	
	乾燥処理後 w_1 %	突固め層数 層					高さ ¹⁾ cm	
測定 NO.	1	2	3	4	5	6	7	8
平均含水比 w %								
乾燥密度 ρ_d g/cm ³								



特記事項

- 1) 内径15cmのモールドの場合はスペーサーディスクの高さを差引く。

ゼロ空気間隙曲線の計算式

$$\rho_{dsat} = \frac{\rho_w}{\rho_w / \rho_s + w / 100}$$

(アスファルト関係)

様式 38

アスファルト試験成績一覧表

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

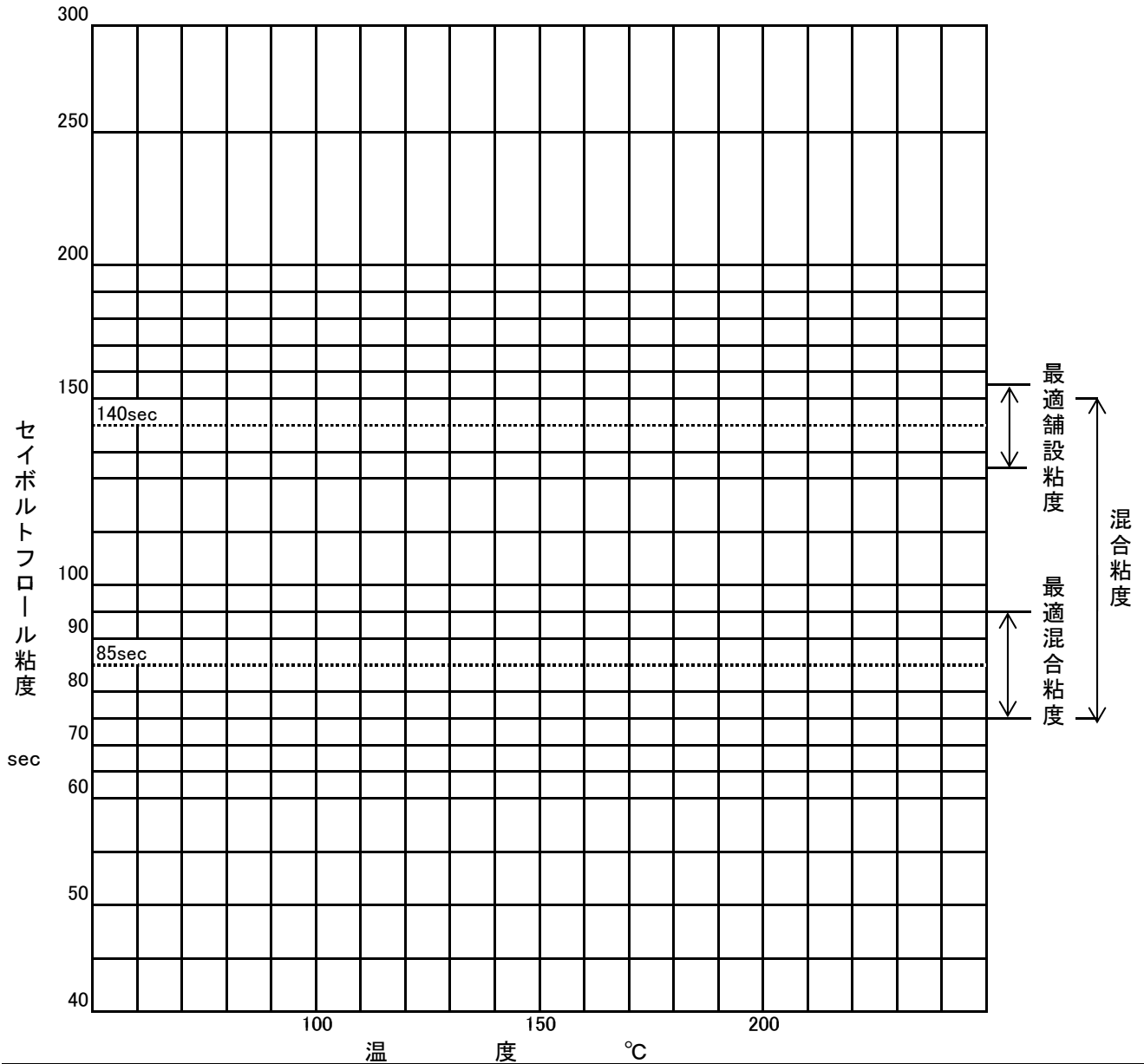
分類			
用途			
製造会社			
密度 (25°C/25°C)	規格	規格	規格
軟化点 °C	規格	規格	規格
針入度 (0°C. 200g. 60秒)	※		
	(25. 100. 5)	規格	規格
	(46. 50. 5)	※	
伸度	(25°C)cm	※	
	(15)cm	規格	規格
	(10)cm	※	
	(5)cm	※	
薄膜加熱重量変化 %	規格	規格	規格
薄膜加熱後の針入度 %	規格	規格	規格
蒸発後の針入度比 %	規格	規格	規格
三塩化エタン可溶分 %	規格	規格	規格
引火点 °C	規格	規格	規格

※は分類につき3,000ton以上使用するものに行う。
アスファルトメーカーが行った場合は日本道路協会規格による。

試験所名 _____

アスファルトの粘度温度表

工事名 _____ 受注会社名 _____
 工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____



	記号	種類	加熱温度	混合温度	舗設温度
最適温度			± °C	± °C	± °C
			± °C	± °C	± °C
現場温度 管度			± °C	± °C	± °C
			± °C	± °C	± °C
混合舗設間温度低下推定					± °C

様式 40

粗骨材試験成績一覧表（碎石）

工事名		受注会社名			
工種名		測定者			印
種	類				
用	途				
産	地				
生	産	会	社		
原	石	種	類		
粒度 (通過量%)	53	mm			
	37.5				
	31.5				
	26.5				
	19				
	13.2				
	9.5				
	4.75				
	2.36				
密		度			
単位体積質量(標準)		kg/m ³			
"		(軽装) kg/m ³			
安		定	性	%	
吸		水	率	%	
す		り	へ	り	減
洗		い	試	験	で
軟		石	量	%	
細		長	、	扁	平
"		(質	量)	%
"		(箇	数)	%
総		試	料	質	量
アルカリシリカ反応		試験結果			
試験(JIS A 5308)		試験方法			
試		験	年	月	日
試		験	機	関	名

細骨材試験成績一覧表（砂）

工事名		受注会社名			
工種名		測定者			印
種	類				
用	途				
産地	河川名				
" 市郡町村					
生産会社					
粒度 (通過量%)	4.75 mm				
	2.36				
	0.6				
	0.3				
	0.15				
	0.075				
	F・M				
密度					
単位体積質量(標準) kg/m ³					
" (軽装) kg/m ³					
安定性 %					
吸水率 %					
洗い試験で失われる量 %					
粒形判定実績率					
総試料質量 kg					
アルカリシリカ反応	試験結果				
試験(JIS A 5308)	試験方法				
試験年月日					
試験機関名					
備考					

石粉及びスクリーニングス試験成績一覧表

工事名		受注会社名			
工種名		測定者			印
種	類				
用	途				
産	地				
生	産	会	社		
原	石	の	種	類	
粒度 (通過量 %)	9.5	mm			
	4.75				
	2.36				
	0.6				
	0.3				
	0.15				
	0.075				
密	度				
単位体積質量(標準) kg/m ³					
" (軽装) kg/m ³					
安	定	性	①	%	
吸	水	率	②	%	
す	り	へ	り	減	量
0.075通過分のP. I. ④					
加熱変質 200 °C ⑤					
フ ロ ー 試 験 ⑥ %					
浸 水 膨 張 ⑦ %					
は く 離 試 験 ⑧ %					
総 試 料 質 量 kg					
試 験 年 月 日					
<p>注 ①～③はスクリーニングスのみとする。</p> <p>④～⑧は原石が石灰岩以外の石粉及び合成した場合の0.075通過分の1割以上がスクリーニングス0.075通過分で占める場合のスクリーニングスの0.15通過分について行う。</p> <p>⑤は200°C ⑥はセメントモルタル用フローテーブルで15回落下200mmの時の石粉に対する水の重量比</p>					

様式 43

骨材粒度曲線表(アスファルト)

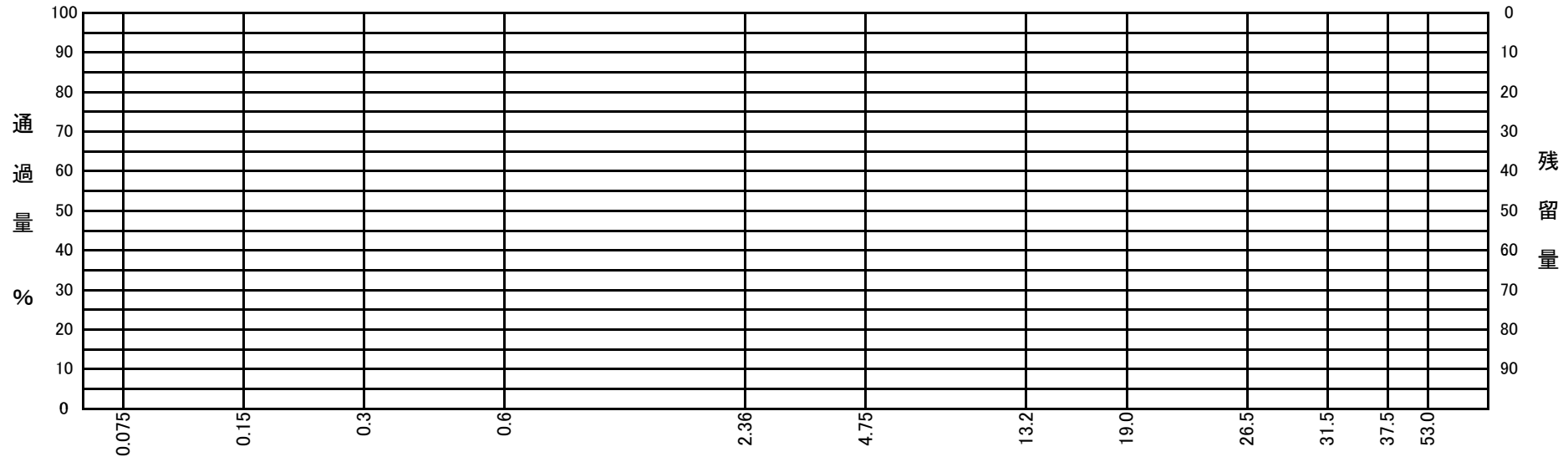
試験日 平成 年 月 日

工事名 _____

受注会社名 _____

工種名 _____

測定者 _____ 印



粒 径 mm

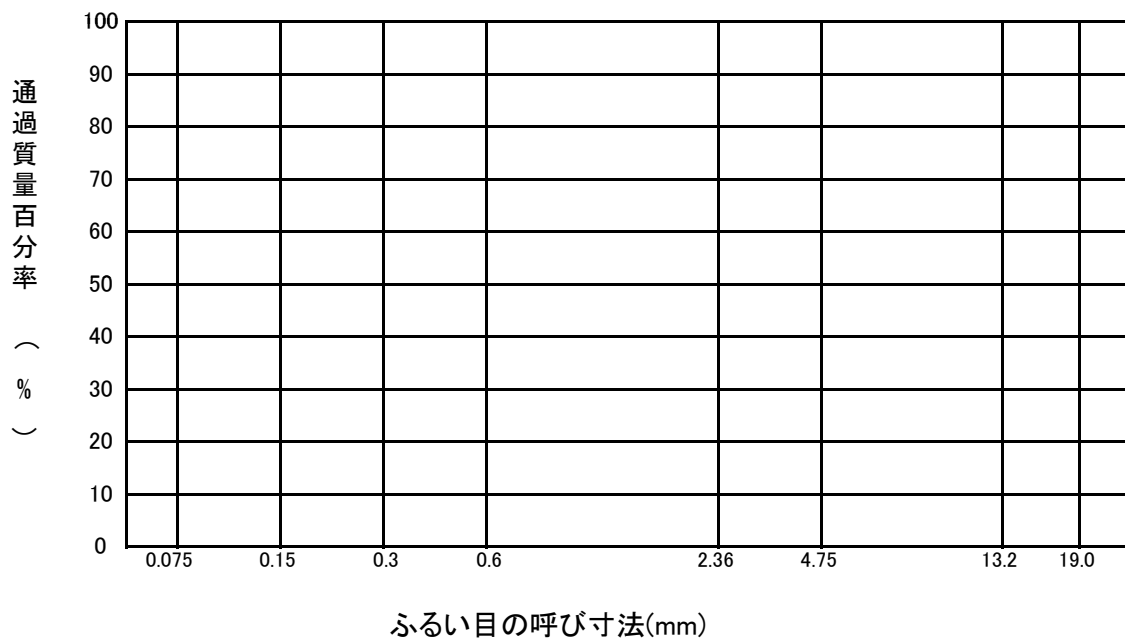
凡例	①		④		⑦	
	②		⑤		⑧	
	③		⑥		例	種類、産、用途

合材粒度ふるい分け試験及び配合比決定例

工事名 _____ 受注会社名 _____
 工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

1. 使用予定骨材のふるい分け試験結果								
ふるいの呼び寸法 (mm)	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.

2. 使用予定骨材の配合百分率の決定



ふるい目の呼び寸法(mm)

様式 45

骨材の推定変動範囲(細骨材及びスクリーニングス)

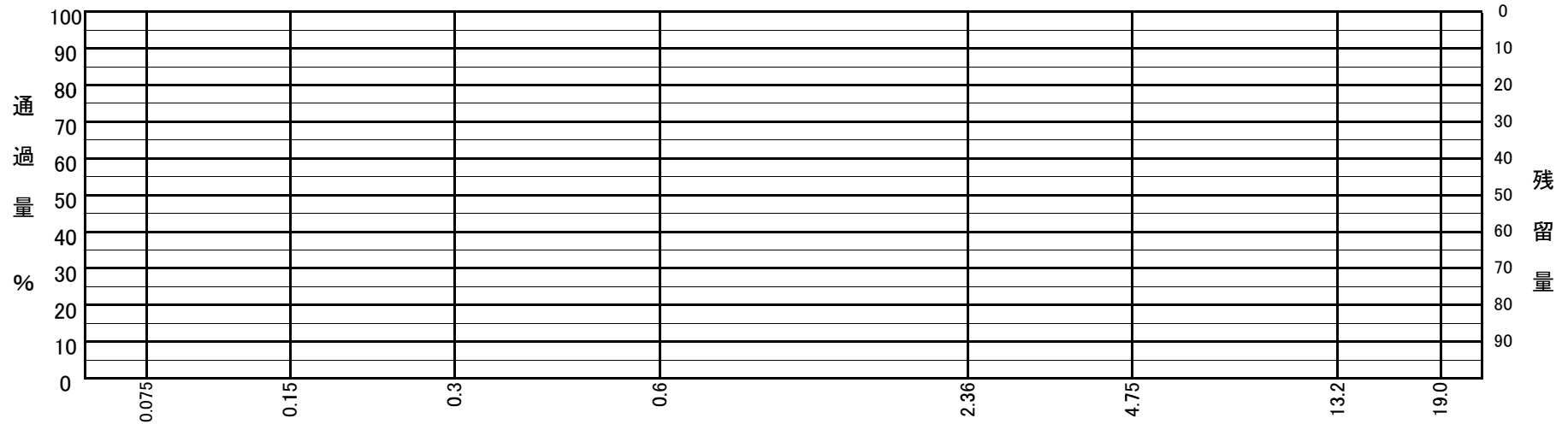
試験日 平成 年 月 日

工事名 _____

受注会社名 _____

工種名 _____

測定者 _____ 印



粒 径 mm

凡例	①		③		
	②		④		

様式 48

合成粒度曲線(室内試験)

試験日 平成 年 月 日

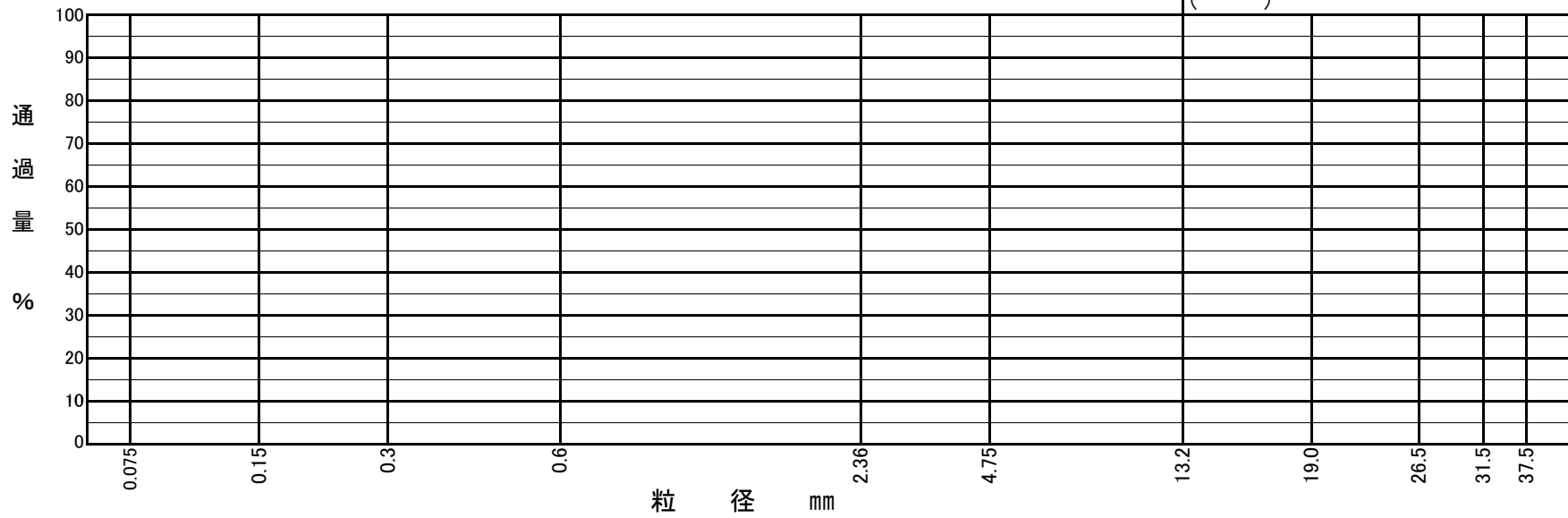
工事名 _____

受注会社名 _____

工種名 _____

測定者 _____ 印

(記号) (合材種別)
()



———	合成粒度
- - - - -	指定範囲

試験配合表（アスファルト量別）

試験日 平成 年 月 日

工事名 _____

受注会社名 _____

工種名 _____

測定者 _____ 印

（アスファルト針入度 _____）

合材種別	記号 ()

配合区分	アスファルト量%	粗骨材%			細骨材%		石粉 %	合計 %	摘要
A									
B									
C									
D									
E									
F									

・配合区分はアスファルト量0.5%又は0.3%毎に区分すること

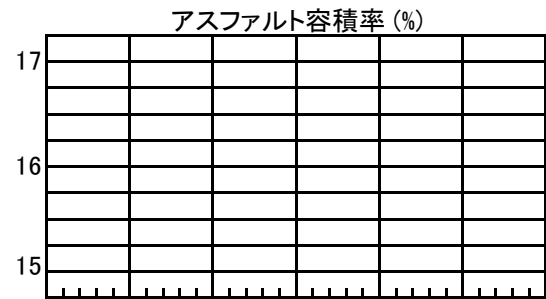
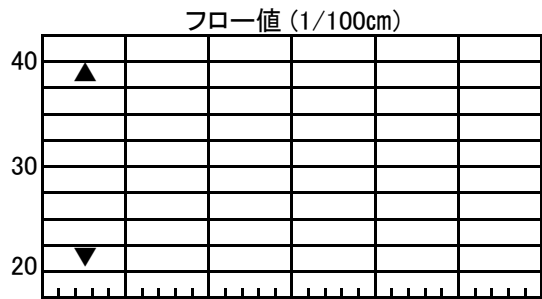
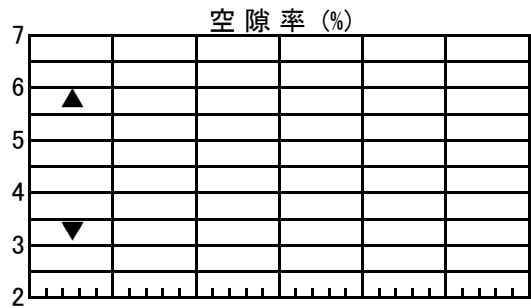
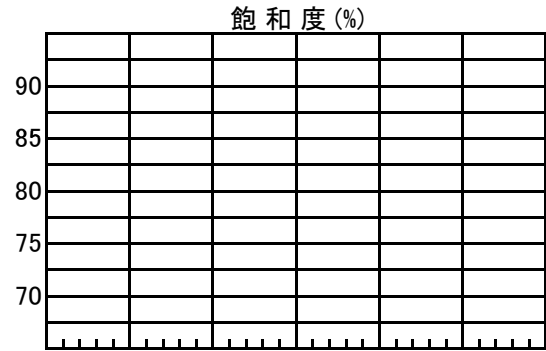
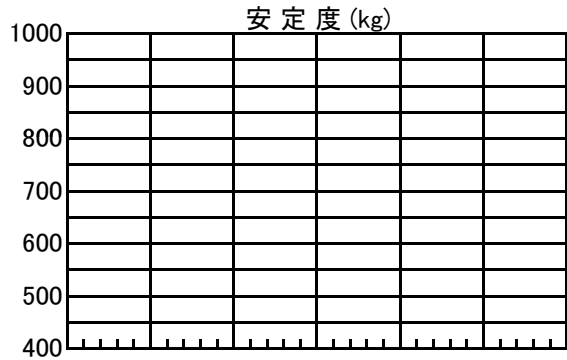
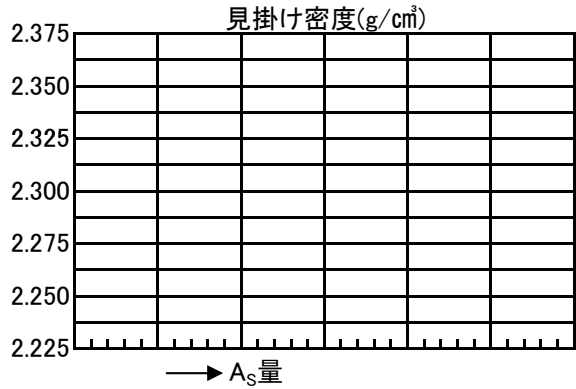
様式 51

試 験 結 果 図 表

工事名 _____
工種名 _____

受注会社名 _____
測定者 _____ 印

(記号) (合材種別)
()



注): 上記の基準値の線は密粒度の1例を示しているの、合材種類が異なる場合は、「アスファルト舗装要綱」により適宜置き換えること。

マーシャル試験による基準アスファルト量


工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

(記号) (合材種別)
()

安定度									
フロー値									
空隙率									
飽和度									
アスファルト量	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	%	
許容範囲									

注：1. それぞれの範囲を  で示し、端部にアスファルト量の数値を付記する。

許容範囲は4項をすべて満足する範囲を  で示し、端部にアスファルト量の数値を付す。

2. 上表の基準値は、密粒度の1例、種別が異なる場合は「アスファルト舗装要綱」による。

基準アスファルト量A

許容範囲の最大値 ①	%
〃 最小値 ②	%
$A = \left[\frac{\text{①} + \text{②}}{2} \right]$	%

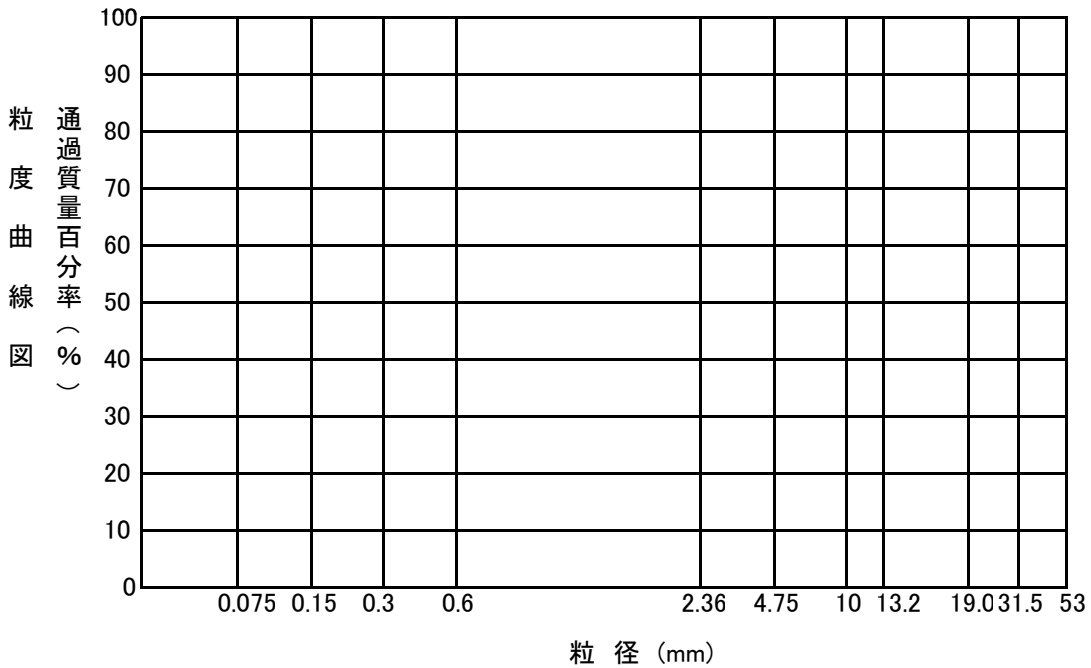
注：アスファルト混合物の一般的な配合設計では、所要の性状を満足し切れない特殊条件のある場合は、現地の実情、過去の実績を勘案して①～Aの範囲で適宜決めること。
なお、「特殊条件」とはアスファルト舗装要綱による「特殊条件」のことである。

フィーダ、ホットビン、ミキサーの骨材の粒度試験

工事名 _____ 受注会社名 _____
 工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験日 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 午前 _____ 時 _____ 分
 試料採取時刻 午後 _____ 時 _____ 分
 骨材の産地又は製造会社名 _____

骨材の種類 通過ふるい											合成 粒度		
	53												
各 フル イ 目 の 通 過 質 量 百 分 率 及 び 配 合 率 %	37.5												
	31.5												
	19.0												
	13.2												
	9.5												
	4.75												
	2.36												
	0.6												
	0.3												
	0.15												
	0.075												
	31.5												
	19.0												
	13.2												
	9.5												
	4.75												
	2.36												
	0.6												
	0.3												
	0.15												
	0.075												



粗骨材のすりへり試験
(JIS A 1121)

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験日	平成 年 月 日 曜 天候						
試験日の状態	室温 (°C)	湿度 (%)	水温 (°C)	乾燥温度 (°C)			
試験料							
とどまるふるい (mm)	通るふるい (mm)	各群の質量 (g)	各群の質量百分率 (%)	粒度区分	球の数	回転数	① 試験前の試料の質量 (g)
	2.5						
2.5	5						
5	10						
10	15						
15	20						
20	25						
25	40						
40	50						
50	60						
60	80						
合 計			100.0				
② 試験後1.7mmふるいにとどまった試料の質量 (g)							
③ すりへり損失質量 ①-② (g)							
④ すりへり減量 $\frac{③}{①} \times 100$ (%)							

考 察

路面の平坦性試験表（標準偏差）

工事名		測定車線	
		測定器の種類	
施工地名	市 町 郡 村	測定年月日	年 月 日
受注会社名		測定者	印

標準偏差の計算	$\bar{R} = \frac{R_1 + R_2 + R_3 + \dots + R_n}{n}$ $\sigma = \frac{\bar{R}}{d_2}$	d ₂ の値	
		グループの大きさ	d ₂
		6	2.53
		7	2.70
		8	2.85
		9	2.97
		10	3.08

グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)

注) 1. 測定値を作成したのち本表で標準偏差を求める。
 2. 測定方法は「アスファルト舗装要綱」による。

プルーフローリング試験

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印

項目	事項				備考
天候		測定面の含水状況			
試験区間	No. _____ ~No. _____				
載荷車	型式		接地圧		
載荷状況	予備載荷回数	回	本載荷速度	km/h	

試験結果

視察展開図	<hr/> <p>No.○ No.○ No.○ No.○ No.○ No.○ No.○</p> <hr/>
	<hr/> <p>No.○ No.○ No.○ No.○ No.○ No.○ No.○</p> <hr/>
視察記事	
異常箇所の処置	

(品質管理関係)

様式 58-1

\bar{X} - R 管理データシート

工 事 名	受注会社名
工 種 名 (名 称)	測 定 者 印
項 目 名 (品 質 特 性)	作 成 者 印

設 計 基 準 値 A	規 格 値 限 界		測 定 単 位	日 標 準 量
	上 限	下 限		資 料 大 小 間 隔
	+	-		作 業 機 械 名

月 日	測 点	組 番 の 号	測 定 値			計 ΣX	平 均 値 \bar{X}	範 圍 R		
			X_1	X_2	X_3					
		1								
		2								
		3								
		4						平均	\bar{X}	
		5						累計	\bar{R}	
小計								小計		
		6								
		7								
		8								
		9						平均	\bar{X}	
		10						累計	\bar{R}	
小計								小計		
		11								
		12								
		13								
		14								
		15								
		16								
		17								
		18								
		19						平均	\bar{X}	
		20						累計	\bar{R}	
小計								小計		

(注)

1. 管理限界線の引直しは、5-5-10-20方式による。
2. 21組から40組までは別のデータシートに記入する。以下、20組ごとに同様とする。

記 事

記入要領

1. 「項目名」はコンクリート(セメントの物理試験)、道路工(含水量試験)等の品質特性を記入する。
2. 「月日」の欄は測定年月を記入する。
3. 「番号」の欄はSTA又はロット番号である。
4. 「測点」の欄は当該測点番号を記入する。

n	d ₂	A ₂	D ₄
2	1.13	1.88	3.27
3	1.69	1.02	2.57
4	2.06	0.73	2.28
5	2.33	0.58	2.11

様式 58-2

X̄ - R 管理データシート

工 事 名 _____ 受注会社名 _____
 工 種 名 (名 称) _____ 測 定 者 _____ 印 _____
 項 目 名 (品 質 特 性) _____ 作 成 者 _____ 印 _____

設 計 基 準 値 A	規 格 値 限 界		測 定 単 位
	上 限	下 限	
	+	-	

日 標 準 量	_____	
資 料	大 き さ	_____
	間 隔	_____
作 業 機 械 名		

月 日	測 点	組 番 の 号	測 定 値			計 Σ X	平均 値 X̄	範 围 R			
			X ₁	X ₂	X ₃						
									平均	X̄	R̄
									累計		
小計									小計		

特記 _____

(注) 1. 管理限界線の引直しは、5-5-10-20方式による。
 2. 21組から40組までは別のデータシートに記入する。以下、20組ごとに同様とする。

- | | |
|---------|---|
| 記 入 要 領 | 1. 「項目名」はコンクリート(セメントの物理試験)、道路工(含水量試験)等の品質特性を記入する。 |
| | 2. 「月日」の欄は測定年月を記入する。 |
| | 3. 「番号」の欄はSTA又はロット番号である。 |
| | 4. 「測点」の欄は当該測点番号を記入する。 |
| | |

n	d ₂	A ₂	D ₄
2	1.13	1.88	3.27
3	1.69	1.02	2.57
4	2.06	0.73	2.28
5	2.33	0.58	2.11

X - R 管理図

設計基準値		工 事 名			事 業 所 名		
名 称		日 標 準 量			期 間	自	年 月 日
品 質 特 性		規 格 値 限 界	上 限 値			至	年 月 日
測 定 単 位			下 限 値		受 注 会 社 名		
測 定 方 法		試 料	大 小		現 場 代 理 人		印
作 業 機 械 名			間 隔		測 定 者		印

X							
R							
組 の 番 号							
記 事							

注) 1.管理図は、別紙X-R管理データシートから記入する。
 2.記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

X-Rs-Rm 管理データシート

名 称		工 事 名		測定	自	年 月 日
品質・特性		事業所名		期間	至	年 月 日
測定単位		日標準量		受注会社名		
規格 限界	上限値	試料	大きさ	現場代理人		印
	下限値		間隔	測定者		印
設計基準値		作業機械名		作成者		印

月日	試験 番号	測 定 値				計 Σ	平 均 値 \bar{X}	移 動 範 囲 R_s	測 定 値 内 囲 の 範 囲 R_m	$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$			
		a	b	c	d					$D_4 \cdot \bar{R}_s =$			
	1								$D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
	2												
	3									\bar{X}	\bar{R}_s	\bar{R}_m	
	4								平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	5								累計				
	小計								小計				
	6								$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$				
	7								$D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
	8								平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	小計								累計				
	9								$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$				
	10								$D_4 \cdot \bar{R}_s =$				
	11								$D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
	12								平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	13								累計				
	小計								小計				
	14								$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$				
	15								$D_4 \cdot \bar{R}_s =$				
	16								$D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
	17												
	18												
	19								平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	20								累計				
	小計								小計				
記 事									n	d_2	D_4	E_2	
									2	1.13	3.27	2.66	
									3	1.69	2.57	1.77	
									4	2.06	2.28	1.46	
									5	2.33	2.11	1.29	

- 注) 1. 規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。
 2. 管理限界線の引直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。

(備考) ————— 管理限界計算のための予備データの区間を示す。
 - - - - - 上記の管理限界を運用する区間を示す。

3. 以下、最近20個(平均値 \bar{x} を1個とする)のデータを用い、次の10個に対する管理限界とする。

様式59-2

X - Rs - Rm 管理データシート of 2

月日	試験 番号	測 定 値 計					平 均 値 X	移 動 範 囲 Rs	測 定 値 内 の 範 囲 Rm			
		a	b	c	d	Σ						
									$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$			
										$D_4 \cdot \bar{R}_s =$		
											$D_4 \cdot \bar{R}_m =$	
									平均	X	R _s	R _m
									$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
									累計			
	小計								小計			
									$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$			
										$D_4 \cdot \bar{R}_s =$		
											$D_4 \cdot \bar{R}_m =$	
									平均	X	R _s	R _m
									$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
									累計			
	小計								小計			
									$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$			
										$D_4 \cdot \bar{R}_s =$		
											$D_4 \cdot \bar{R}_m =$	
									平均	X	R _s	R _m
									$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
									累計			
	小計								小計			
									$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$			
										$D_4 \cdot \bar{R}_s =$		
											$D_4 \cdot \bar{R}_m =$	
									平均	X	R _s	R _m
									$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
									累計			
	小計								小計			

注) 1. 管理限界線の引直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。

(備考) ————— 管理限界計算のための予備データの区間を示す。
 ----- 上記の管理限界を運用する区間を示す。

2. 以下、最近20個(平均値 \bar{x} を1個とする)のデータを用い、次の10個に対する管理限界とする。

n	d_{31}	D_4	E_2
2	1.13	3.27	2.66
3	1.69	2.57	1.77
4	2.06	2.28	1.46
5	2.33	2.11	1.29

X - Rs - Rm 管理図

設計基準値	工 事 名		事業所名		
名称	日 標 準 量		期 間	自	年 月 日
品質特性	規格値限界	上限値		至	年 月 日
測定単位		下限値	受注会社名		
測定方法	試 料	大きさ	現場代理人		印
作業機械名		間隔	測定者		印

X																								
Rs																								
Rm																								
組 の 番 号																								
記 事																								

注) 1. 管理図は、別紙X-Rs-Rm管理データシートから記入する。
 2. 記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。